

第15章 準備書等の記載事項の修正内容

15.1 準備書から補正前の評価書への修正

環境影響評価法第二十条第一項に基づく千葉県知事意見を勘案して環境影響評価準備書の記載事項について検討を加え、補正前の評価書において行った修正等を表 15.1-1 及び表 15.1-2 に示します。なお、表現の適正化及び誤字、脱字等の訂正については適宜行いました。

表 15.1-1 知事意見を踏まえた準備書の記載事項の修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P10.10-51～ 241 第10章10.1 表10.10-32～ 表10.10-42	<p>【確認種の生息環境】 【主な生息環境】 樹林環境、耕作地及び緑の多い住宅地等、水辺環境の3区分。 【主な生息環境の改変面積】 3区分の改変面積。</p>	<p>【確認種の生息環境】 【主な生息環境】 自然林、二次林、植林地、二次草地、畑地等、緑の多い住宅地等、その他（グラウンド等）、水田等、水辺植生、開放水域の10区分。 【主な生息環境の改変面積】 10区分の改変面積 ※ 一般生態及び現地の確認状況を基に、地形区分と植生区分の組み合わせを見直し再集計しました。</p>
P10.11-50 第10章11.1 表10.11-21	<p>【表の修正】 【マツバラン】 生育環境は保全される</p>	<p>【表の修正】 【マツバラン】 生育環境は保全されないおそれがある</p>
P10.11-57 第10章11.1 表10.11-23(4)	<p>【表の修正】 計画路線区域には、本種の生育環境が存在し、工事の実施により3株（現地調査で確認された生育株の27.3%）の生育環境が消失しますが、計画路線区域周辺に生育環境が多く残存します。 （中略） 以上より、工事の実施に伴う生育環境への変化は小さいため、本種の生育環境は保全されると予測します。</p>	<p>【表の修正】 計画路線区域には、本種の生育環境が存在し、工事の実施により3株（現地調査で確認された生育株の27.3%）の生育環境が消失します。 （中略） 以上より、<u>工事の実施に伴う生育環境への変化が生じる可能性があるため、本種の生育環境は保全されないおそれがあると予測します。</u></p>
P10.11-165 第10章11.1 表10.11-29 P10.11-167 第10章10.11-30(5)	<p>【表の修正】 ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コ克蘭、イヌアワ</p>	<p>【表の修正】 <u>マツバラン、ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コ克蘭、イヌアワ</u></p>

表 15.1-2(1) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書																										
全体	—	誤記を修正しました。																										
P3-6 第3章 3.2 3.2.6	【9行目】 道路構造は、地表式（盛土部、切土部）、嵩上式（橋梁・高架部）、地下式（トンネル部）を採用しました。道路構造の種類を区分を図 3.2-4 に、標準断面図を図 3.2-5 に示します。	【9行目】 道路構造は、地表式（土工部）、嵩上式（橋梁部）、地下式（トンネル部）を採用しました。道路構造の種類を区分を図 3.2-4 に、標準横断面図を図 3.2-5 に示します。																										
P3-6 第3章 3.2 3.2.6	【23行目～26行目】 —	【23行目～26行目】 地表式、嵩上式、地下式の説明を記載しました。																										
P3-8 第3章 3.2 3.2.6 図 3.2-5(1)	【1行目】 1) 地表式区間（平面・盛土・切土）	【1行目】 1) 地表式区間（土工部）																										
P3-8 第3章 3.2 3.2.6 図 3.2-5(1)	【2行目】 2) 嵩上式区間（橋梁）	【2行目】 2) 嵩上式区間（橋梁部）																										
P3-8～3-9 第3章 3.2 3.2.6 図 3.2-5 (1)(2)	【図題】 標準横断構成	【図題】 標準横断面図																										
P3-9 第3章 3.2 3.2.6 図 3.2-5(2)	【1行目】 3) 地下式区間（トンネル）	【1行目】 3) 地下式区間（トンネル部）																										
P3-9 第3章 3.2 3.2.6	【表の修正】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>インターチェンジ名称</th> <th>接続道路</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>富浦インターチェンジ</td> <td>国道 127 号（館山バイパス）</td> </tr> <tr> <td>甕南富山インターチェンジ</td> <td>県道 184 号（(一) 外野勝山線）</td> </tr> <tr> <td>甕南保田インターチェンジ</td> <td>県道 34 号（(主) 鶴川保田線）</td> </tr> <tr> <td>富津金谷インターチェンジ</td> <td>県道 237 号（(一) 浜金谷停車場線）</td> </tr> <tr> <td>富津竹岡インターチェンジ</td> <td>県道 91 号（(主) 竹岡インター線）</td> </tr> </tbody> </table>	インターチェンジ名称	接続道路	富浦インターチェンジ	国道 127 号（館山バイパス）	甕南富山インターチェンジ	県道 184 号（(一) 外野勝山線）	甕南保田インターチェンジ	県道 34 号（(主) 鶴川保田線）	富津金谷インターチェンジ	県道 237 号（(一) 浜金谷停車場線）	富津竹岡インターチェンジ	県道 91 号（(主) 竹岡インター線）	【表の修正】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>インターチェンジ名称</th> <th>接続道路</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>富浦 IC</td> <td>国道 127 号（館山バイパス）</td> </tr> <tr> <td>甕南富山 IC</td> <td>県道 184 号（(一) 外野勝山線）</td> </tr> <tr> <td>甕南保田 IC</td> <td>県道 34 号（(主) 鶴川保田線）</td> </tr> <tr> <td>富津金谷 IC</td> <td>県道 237 号（(一) 浜金谷停車場線）</td> </tr> <tr> <td>富津竹岡 IC</td> <td>県道 91 号（(主) 竹岡インター線）</td> </tr> </tbody> </table>	インターチェンジ名称	接続道路	富浦 IC	国道 127 号（館山バイパス）	甕南富山 IC	県道 184 号（(一) 外野勝山線）	甕南保田 IC	県道 34 号（(主) 鶴川保田線）	富津金谷 IC	県道 237 号（(一) 浜金谷停車場線）	富津竹岡 IC	県道 91 号（(主) 竹岡インター線）		
インターチェンジ名称	接続道路																											
富浦インターチェンジ	国道 127 号（館山バイパス）																											
甕南富山インターチェンジ	県道 184 号（(一) 外野勝山線）																											
甕南保田インターチェンジ	県道 34 号（(主) 鶴川保田線）																											
富津金谷インターチェンジ	県道 237 号（(一) 浜金谷停車場線）																											
富津竹岡インターチェンジ	県道 91 号（(主) 竹岡インター線）																											
インターチェンジ名称	接続道路																											
富浦 IC	国道 127 号（館山バイパス）																											
甕南富山 IC	県道 184 号（(一) 外野勝山線）																											
甕南保田 IC	県道 34 号（(主) 鶴川保田線）																											
富津金谷 IC	県道 237 号（(一) 浜金谷停車場線）																											
富津竹岡 IC	県道 91 号（(主) 竹岡インター線）																											
P3-10 第3章 3.2 3.2.6	【表の修正】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>道路構造の種類</th> <th>工事区分</th> <th>想定される主な工種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地表式</td> <td rowspan="2">土工部</td> <td>盛土工 盛土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工</td> </tr> <tr> <td>切土工 切土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工</td> </tr> <tr> <td>嵩上式</td> <td>橋梁部</td> <td>基礎杭工、土留工、掘削・支保工、橋台・橋脚構築工、橋桁架設工、床版工、舗装工・設備工</td> </tr> <tr> <td>地下式</td> <td>トンネル部 山岳トンネル工法</td> <td>掘削工、ずり出し、支保工、覆工コンクリート工</td> </tr> </tbody> </table>	道路構造の種類	工事区分	想定される主な工種	地表式	土工部	盛土工 盛土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工	切土工 切土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工	嵩上式	橋梁部	基礎杭工、土留工、掘削・支保工、橋台・橋脚構築工、橋桁架設工、床版工、舗装工・設備工	地下式	トンネル部 山岳トンネル工法	掘削工、ずり出し、支保工、覆工コンクリート工	【表の修正】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>道路構造の種類</th> <th>工事区分</th> <th>想定される主な工種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地表式</td> <td rowspan="2">土工部</td> <td>切土工 切土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工</td> </tr> <tr> <td>盛土工 盛土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工</td> </tr> <tr> <td>嵩上式</td> <td>橋梁部</td> <td>基礎杭工、土留工、掘削・支保工、橋台・橋脚構築工、橋桁架設工、床版工、舗装工・設備工</td> </tr> <tr> <td>地下式</td> <td>トンネル部 山岳トンネル工法</td> <td>掘削工、ずり出し、支保工、覆工コンクリート工</td> </tr> </tbody> </table>	道路構造の種類	工事区分	想定される主な工種	地表式	土工部	切土工 切土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工	盛土工 盛土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工	嵩上式	橋梁部	基礎杭工、土留工、掘削・支保工、橋台・橋脚構築工、橋桁架設工、床版工、舗装工・設備工	地下式	トンネル部 山岳トンネル工法	掘削工、ずり出し、支保工、覆工コンクリート工
道路構造の種類	工事区分	想定される主な工種																										
地表式	土工部	盛土工 盛土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工																										
		切土工 切土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工																										
嵩上式	橋梁部	基礎杭工、土留工、掘削・支保工、橋台・橋脚構築工、橋桁架設工、床版工、舗装工・設備工																										
地下式	トンネル部 山岳トンネル工法	掘削工、ずり出し、支保工、覆工コンクリート工																										
道路構造の種類	工事区分	想定される主な工種																										
地表式	土工部	切土工 切土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工																										
		盛土工 盛土工、路床・路盤工、法面工、擁壁構築工、舗装工・設備工																										
嵩上式	橋梁部	基礎杭工、土留工、掘削・支保工、橋台・橋脚構築工、橋桁架設工、床版工、舗装工・設備工																										
地下式	トンネル部 山岳トンネル工法	掘削工、ずり出し、支保工、覆工コンクリート工																										
P3-10 第3章 3.2 3.2.6	【10行目】 本事業の工事は、地表式（盛土部、切土部）、嵩上式（橋梁・高架部）、地下式（トンネル部）の3種類から構成されます。	【10行目】 本事業の工事は、地表式（土工部）、嵩上式（橋梁部）、地下式（トンネル部）の3種類から構成されます。																										

表 15.1-2(2) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P3-11 第3章 3.2 3.2.6	【4行目～7行目】 切土工では、切土掘削工を施工した後に、機械による法面整形及び法面緑化等を施工して法面保護を行い、場所によっては擁壁を構築します。その後機械施工により、舗装工・設備工を施工して完成となります。なお、掘削した土砂は、トラック等により盛土部に運搬し、盛土材として運用します。施工順序を図 3.2-6 に示します。	【4行目～7行目】 <u>土工部</u> (切土工) では、切土掘削工を施工した後に、機械による法面整形及び法面緑化等を施工して法面保護を行い、場所によっては擁壁を構築します。その後機械施工により、舗装工・設備工を施工して完成となります。なお、掘削した土砂は、トラック等により盛土部に運搬し、盛土材として <u>活用</u> します。施工順序を図 3.2-6 に示します。
P3-11 第3章 3.2 3.2.6 図 3.2-6	【図題の修正】 土工工事 (切土) の施工順序	【図題の修正】 <u>地表式</u> 工事 (切土工) の施工順序
P3-12 第3章 3.2 3.2.6	【2行目～6行目】 盛土工では、盛土工として都市計画対象道路事業実施区域内外より運搬された土砂等をまき出し、敷均した後に転圧機械により締め固め作業を行います。この作業を繰り返し、舗装面以下まで盛土を構築します。盛土工を進めた段階で、機械による法面緑化等を施工して法面保護を行い、場所によっては擁壁を構築します。その後機械施工により、舗装工・設備工となります。施工順序を図 3.2-7 に示します。	【2行目～6行目】 <u>土工部</u> (盛土工) では、 <u>対象事業実施区域内外</u> より運搬された土砂等をまき出し、敷き均した後に転圧機械により締め固め作業を行います。この作業を繰り返し、舗装面以下まで盛土を構築します。盛土工を進めた段階で、機械による法面緑化等を施工して法面保護を行い、場所によっては擁壁を構築します。その後機械施工による <u>舗装工・設備工</u> となります。施工順序を図 3.2-7 に示します。
P3-12 第3章 3.2 3.2.6 図 3.2-7	【図題の修正】 土工工事 (盛土) の施工順序	【図題の修正】 <u>地表式</u> 工事 (盛土工) の施工順序
P3-13 第3章 3.2 3.2.6	【1行目】 b) 嵩上げ式 (a) 橋梁・高架部 橋梁・高架部では、最初に橋台・橋脚の基礎としての杭を施工し、土留め、掘削を行った後、橋台・橋脚の躯体を構築します。	【1行目】 b) <u>嵩上式</u> (a) <u>橋梁部</u> <u>橋梁部</u> では、最初に橋台・橋脚の基礎としての杭を施工し、土留め、掘削を行った後、橋台・橋脚の躯体を構築します。
P3-13, 14 第3章 3.2 3.2.6 図 3.2-8 (1) (2)	【図題の修正】 橋梁・高架工事の施工順序	【図題の修正】 <u>嵩上式</u> 工事の施工順序

表 15.1-2(3) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書																																																																																																																												
P3-16 第3章 3.2 3.2.6 表 3.2-3	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補修機種</th> <th>工事区分</th> <th>主な工種</th> <th>主な作業内容(種別)</th> <th>主な建設機械</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">地表式</td> <td rowspan="3">切土</td> <td>土工</td> <td>切土</td> <td>ブルドーザ、バックホウ</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>法面整形工、種子撒付工</td> <td>バックホウ、種子撒付機</td> </tr> <tr> <td>舗装構築工</td> <td>コンクリート工</td> <td>コンクリートポンプ車</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛土</td> <td>舗装工・設備工</td> <td>アスファルト舗装工、設備工</td> <td>アスファルトフィニッシャー、振動ローラー</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>盛土工</td> <td>ブルドーザ、バックホウ</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>法面整形工、種子撒付工</td> <td>バックホウ、種子撒付機</td> </tr> <tr> <td rowspan="12">崖上式</td> <td rowspan="6">橋梁・高架橋</td> <td>舗装構築工</td> <td>コンクリート工</td> <td>コンクリートポンプ車</td> </tr> <tr> <td>舗装工・設備工</td> <td>アスファルト舗装工、設備工</td> <td>アスファルトフィニッシャー、振動ローラー</td> </tr> <tr> <td>基礎杭工</td> <td>掘削杭工(オールドレンジ)</td> <td>オールドレンジ掘削機、コンクリートポンプ車</td> </tr> <tr> <td>土留工</td> <td>鋼矢板工</td> <td>クレーン式アースレーザ、クレーン</td> </tr> <tr> <td>掘削・支保工</td> <td>掘削工(土留掘削)、支保工</td> <td>バックホウ、ブルドーザ、クレーン</td> </tr> <tr> <td>橋脚・橋脚構築工</td> <td>コンクリート工</td> <td>コンクリートポンプ車</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">トンネル部</td> <td>舗装構築工</td> <td>コンクリート工</td> <td>コンクリートポンプ車、クレーン</td> </tr> <tr> <td>舗装工・設備工</td> <td>アスファルト舗装工、設備工</td> <td>アスファルトフィニッシャー、振動ローラー</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>掘削・すり溜り</td> <td>バックホウ、バックホウ、ブルドーザ</td> </tr> <tr> <td>支保工</td> <td>掘削、支保工建設、ロックボルト工</td> <td>バックホウ、バックホウ、ブルドーザ、クレーン</td> </tr> <tr> <td>掘削・トンネル設備工</td> <td>コンクリート舗装工、アスファルト舗装工、トンネル設備工</td> <td>コンクリートポンプ車、アスファルトフィニッシャー、振動ローラー、高圧洗浄機</td> </tr> </tbody> </table>	補修機種	工事区分	主な工種	主な作業内容(種別)	主な建設機械	地表式	切土	土工	切土	ブルドーザ、バックホウ	土工	法面整形工、種子撒付工	バックホウ、種子撒付機	舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車	盛土	舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー	土工	盛土工	ブルドーザ、バックホウ	土工	法面整形工、種子撒付工	バックホウ、種子撒付機	崖上式	橋梁・高架橋	舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車	舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー	基礎杭工	掘削杭工(オールドレンジ)	オールドレンジ掘削機、コンクリートポンプ車	土留工	鋼矢板工	クレーン式アースレーザ、クレーン	掘削・支保工	掘削工(土留掘削)、支保工	バックホウ、ブルドーザ、クレーン	橋脚・橋脚構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車	トンネル部	舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車、クレーン	舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー	土工	掘削・すり溜り	バックホウ、バックホウ、ブルドーザ	支保工	掘削、支保工建設、ロックボルト工	バックホウ、バックホウ、ブルドーザ、クレーン	掘削・トンネル設備工	コンクリート舗装工、アスファルト舗装工、トンネル設備工	コンクリートポンプ車、アスファルトフィニッシャー、振動ローラー、高圧洗浄機	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補修機種</th> <th>工事区分</th> <th>主な工種</th> <th>主な作業内容(種別)</th> <th>主な建設機械</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">地表式</td> <td rowspan="3">切土</td> <td>土工</td> <td>切土</td> <td>ブルドーザ、バックホウ</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>法面整形工、種子撒付工</td> <td>バックホウ、種子撒付機</td> </tr> <tr> <td>舗装構築工</td> <td>コンクリート工</td> <td>コンクリートポンプ車</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛土</td> <td>舗装工・設備工</td> <td>アスファルト舗装工、設備工</td> <td>アスファルトフィニッシャー、振動ローラー</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>盛土工</td> <td>ブルドーザ、バックホウ</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>法面整形工、種子撒付工</td> <td>バックホウ、種子撒付機</td> </tr> <tr> <td rowspan="12">崖上式</td> <td rowspan="6">橋梁・高架橋</td> <td>舗装構築工</td> <td>コンクリート工</td> <td>コンクリートポンプ車</td> </tr> <tr> <td>舗装工・設備工</td> <td>アスファルト舗装工、設備工</td> <td>アスファルトフィニッシャー、振動ローラー</td> </tr> <tr> <td>基礎杭工</td> <td>掘削杭工(オールドレンジ)</td> <td>オールドレンジ掘削機、コンクリートポンプ車</td> </tr> <tr> <td>土留工</td> <td>鋼矢板工</td> <td>クレーン式アースレーザ、クレーン</td> </tr> <tr> <td>掘削・支保工</td> <td>掘削工(土留掘削)、支保工</td> <td>バックホウ、ブルドーザ、クレーン</td> </tr> <tr> <td>橋脚・橋脚構築工</td> <td>コンクリート工</td> <td>コンクリートポンプ車</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">トンネル部</td> <td>舗装構築工</td> <td>コンクリート工</td> <td>コンクリートポンプ車、クレーン</td> </tr> <tr> <td>舗装工・設備工</td> <td>アスファルト舗装工、設備工</td> <td>アスファルトフィニッシャー、振動ローラー</td> </tr> <tr> <td>土工</td> <td>掘削・すり溜り</td> <td>バックホウ、バックホウ、ブルドーザ</td> </tr> <tr> <td>支保工</td> <td>掘削、支保工建設、ロックボルト工</td> <td>バックホウ、バックホウ、ブルドーザ、クレーン</td> </tr> <tr> <td>掘削・トンネル設備工</td> <td>コンクリート舗装工、アスファルト舗装工、トンネル設備工</td> <td>コンクリートポンプ車、アスファルトフィニッシャー、振動ローラー、高圧洗浄機</td> </tr> </tbody> </table>	補修機種	工事区分	主な工種	主な作業内容(種別)	主な建設機械	地表式	切土	土工	切土	ブルドーザ、バックホウ	土工	法面整形工、種子撒付工	バックホウ、種子撒付機	舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車	盛土	舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー	土工	盛土工	ブルドーザ、バックホウ	土工	法面整形工、種子撒付工	バックホウ、種子撒付機	崖上式	橋梁・高架橋	舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車	舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー	基礎杭工	掘削杭工(オールドレンジ)	オールドレンジ掘削機、コンクリートポンプ車	土留工	鋼矢板工	クレーン式アースレーザ、クレーン	掘削・支保工	掘削工(土留掘削)、支保工	バックホウ、ブルドーザ、クレーン	橋脚・橋脚構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車	トンネル部	舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車、クレーン	舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー	土工	掘削・すり溜り	バックホウ、バックホウ、ブルドーザ	支保工	掘削、支保工建設、ロックボルト工	バックホウ、バックホウ、ブルドーザ、クレーン	掘削・トンネル設備工	コンクリート舗装工、アスファルト舗装工、トンネル設備工	コンクリートポンプ車、アスファルトフィニッシャー、振動ローラー、高圧洗浄機
補修機種	工事区分	主な工種	主な作業内容(種別)	主な建設機械																																																																																																																										
地表式	切土	土工	切土	ブルドーザ、バックホウ																																																																																																																										
		土工	法面整形工、種子撒付工	バックホウ、種子撒付機																																																																																																																										
		舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車																																																																																																																										
	盛土	舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー																																																																																																																										
		土工	盛土工	ブルドーザ、バックホウ																																																																																																																										
		土工	法面整形工、種子撒付工	バックホウ、種子撒付機																																																																																																																										
崖上式	橋梁・高架橋	舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車																																																																																																																										
		舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー																																																																																																																										
		基礎杭工	掘削杭工(オールドレンジ)	オールドレンジ掘削機、コンクリートポンプ車																																																																																																																										
		土留工	鋼矢板工	クレーン式アースレーザ、クレーン																																																																																																																										
		掘削・支保工	掘削工(土留掘削)、支保工	バックホウ、ブルドーザ、クレーン																																																																																																																										
		橋脚・橋脚構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車																																																																																																																										
	トンネル部	舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車、クレーン																																																																																																																										
		舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー																																																																																																																										
		土工	掘削・すり溜り	バックホウ、バックホウ、ブルドーザ																																																																																																																										
		支保工	掘削、支保工建設、ロックボルト工	バックホウ、バックホウ、ブルドーザ、クレーン																																																																																																																										
		掘削・トンネル設備工	コンクリート舗装工、アスファルト舗装工、トンネル設備工	コンクリートポンプ車、アスファルトフィニッシャー、振動ローラー、高圧洗浄機																																																																																																																										
		補修機種	工事区分	主な工種	主な作業内容(種別)	主な建設機械																																																																																																																								
地表式	切土	土工	切土	ブルドーザ、バックホウ																																																																																																																										
		土工	法面整形工、種子撒付工	バックホウ、種子撒付機																																																																																																																										
		舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車																																																																																																																										
	盛土	舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー																																																																																																																										
		土工	盛土工	ブルドーザ、バックホウ																																																																																																																										
		土工	法面整形工、種子撒付工	バックホウ、種子撒付機																																																																																																																										
崖上式	橋梁・高架橋	舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車																																																																																																																										
		舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー																																																																																																																										
		基礎杭工	掘削杭工(オールドレンジ)	オールドレンジ掘削機、コンクリートポンプ車																																																																																																																										
		土留工	鋼矢板工	クレーン式アースレーザ、クレーン																																																																																																																										
		掘削・支保工	掘削工(土留掘削)、支保工	バックホウ、ブルドーザ、クレーン																																																																																																																										
		橋脚・橋脚構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車																																																																																																																										
	トンネル部	舗装構築工	コンクリート工	コンクリートポンプ車、クレーン																																																																																																																										
		舗装工・設備工	アスファルト舗装工、設備工	アスファルトフィニッシャー、振動ローラー																																																																																																																										
		土工	掘削・すり溜り	バックホウ、バックホウ、ブルドーザ																																																																																																																										
		支保工	掘削、支保工建設、ロックボルト工	バックホウ、バックホウ、ブルドーザ、クレーン																																																																																																																										
		掘削・トンネル設備工	コンクリート舗装工、アスファルト舗装工、トンネル設備工	コンクリートポンプ車、アスファルトフィニッシャー、振動ローラー、高圧洗浄機																																																																																																																										
		P3-17 第3章 3.2 3.2.6	<p>【2行目～5行目】</p> <p>工事施工ヤードは、計画路線の区域内を極力利用する計画です。また、工事用道路は、計画路線の区域内及び既存道路を利用する計画です。工事用車両(搬入搬出車両)は大別すると、盛土及び掘削土の搬入搬出用等のダンプトラック、コンクリート搬入用のコンクリートミキサー車です。</p>	<p>【2行目～5行目】</p> <p>工事施工ヤードは、計画路線の区域内を極力利用する計画です。また、工事用道路は、計画路線の区域内及び既存道路を利用する計画です。<u>資材及び機材の運搬に用いる車両(以下「工事用車両」という。)</u>は大別すると、盛土及び掘削土の搬入搬出用等のダンプトラック、コンクリート搬入用のコンクリートミキサー車です。</p>																																																																																																																										
P4.1-1 第4章 題	<p>【章題の修正】</p> <p>第4章 対象事業実施区域及びその周囲の概況(地域特性)</p>	<p>【章題の修正】</p> <p>第4章 都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲の概況(地域特性)</p>																																																																																																																												
P4.1-18, 19, 20, 21 第4章 4.1.2 表 4.1-7(1)(2)(3)(4)(5)	<p>【年度の修正】</p> <p>令和4年度</p>	<p>【年度の修正】</p> <p>令和3年度</p>																																																																																																																												
P4.1-19 第4章 4.1.2 表 4.1-7(3)	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>河川名</th> <th colspan="2">佐久間川</th> <th rowspan="2">環境基準</th> </tr> <tr> <th>調査地点</th> <th colspan="2">勝山橋</th> </tr> <tr> <th>類型</th> <th colspan="2">-</th> <th>-</th> </tr> <tr> <th>調査項目</th> <th>測定値</th> <th>m/n</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>pH</td> <td>7.6~7.8</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>DO(mg/L)</td> <td>6.0~10.0</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>BOD(mg/L)</td> <td>0.9~1.3</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>COD(mg/L)</td> <td>5.5~7.6</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>SS(mg/L)</td> <td>5~21</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>大腸菌群数(MPN/100mL)</td> <td>7,000~170,000</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>全窒素(mg/L)</td> <td>0.9~1.3</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>全リン(mg/L)</td> <td>0.20~0.33</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>全亜鉛(mg/L)</td> <td>0.003~0.006</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>ノニルフェノール(mg/L)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	河川名	佐久間川		環境基準	調査地点	勝山橋		類型	-		-	調査項目	測定値	m/n		pH	7.6~7.8	-	-	DO(mg/L)	6.0~10.0	-	-	BOD(mg/L)	0.9~1.3	-	-	COD(mg/L)	5.5~7.6	-	-	SS(mg/L)	5~21	-	-	大腸菌群数(MPN/100mL)	7,000~170,000	-	-	全窒素(mg/L)	0.9~1.3	-	-	全リン(mg/L)	0.20~0.33	-	-	全亜鉛(mg/L)	0.003~0.006	-	-	ノニルフェノール(mg/L)	-	-	-	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>河川名</th> <th colspan="2">佐久間川</th> <th rowspan="2">環境基準</th> </tr> <tr> <th>調査地点</th> <th colspan="2">勝山橋</th> </tr> <tr> <th>類型</th> <th colspan="2">-</th> <th>-</th> </tr> <tr> <th>調査項目</th> <th>測定値</th> <th>m/n</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>pH</td> <td>7.6~7.8</td> <td>-</td> <td>6.5以上8.5以下</td> </tr> <tr> <td>DO(mg/L)</td> <td>6.0~10.0</td> <td>-</td> <td>7.5以上</td> </tr> <tr> <td>BOD(mg/L)</td> <td>0.9~1.3</td> <td>-</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>COD(mg/L)</td> <td>5.5~7.6</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>SS(mg/L)</td> <td>5~21</td> <td>-</td> <td>25以下</td> </tr> <tr> <td>大腸菌群数(MPN/100mL)</td> <td>7,000~170,000</td> <td>-</td> <td>1,000以下</td> </tr> <tr> <td>全窒素(mg/L)</td> <td>0.9~1.3</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>全リン(mg/L)</td> <td>0.20~0.33</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>全亜鉛(mg/L)</td> <td>0.003~0.006</td> <td>-</td> <td>0.03以下</td> </tr> <tr> <td>ノニルフェノール(mg/L)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.0006以下</td> </tr> <tr> <td>AS(mg/L)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.02以下</td> </tr> </tbody> </table>	河川名	佐久間川		環境基準	調査地点	勝山橋		類型	-		-	調査項目	測定値	m/n		pH	7.6~7.8	-	6.5以上8.5以下	DO(mg/L)	6.0~10.0	-	7.5以上	BOD(mg/L)	0.9~1.3	-	2以下	COD(mg/L)	5.5~7.6	-	-	SS(mg/L)	5~21	-	25以下	大腸菌群数(MPN/100mL)	7,000~170,000	-	1,000以下	全窒素(mg/L)	0.9~1.3	-	-	全リン(mg/L)	0.20~0.33	-	-	全亜鉛(mg/L)	0.003~0.006	-	0.03以下	ノニルフェノール(mg/L)	-	-	0.0006以下	AS(mg/L)	-	-	0.02以下										
河川名	佐久間川		環境基準																																																																																																																											
調査地点	勝山橋																																																																																																																													
類型	-		-																																																																																																																											
調査項目	測定値	m/n																																																																																																																												
pH	7.6~7.8	-	-																																																																																																																											
DO(mg/L)	6.0~10.0	-	-																																																																																																																											
BOD(mg/L)	0.9~1.3	-	-																																																																																																																											
COD(mg/L)	5.5~7.6	-	-																																																																																																																											
SS(mg/L)	5~21	-	-																																																																																																																											
大腸菌群数(MPN/100mL)	7,000~170,000	-	-																																																																																																																											
全窒素(mg/L)	0.9~1.3	-	-																																																																																																																											
全リン(mg/L)	0.20~0.33	-	-																																																																																																																											
全亜鉛(mg/L)	0.003~0.006	-	-																																																																																																																											
ノニルフェノール(mg/L)	-	-	-																																																																																																																											
河川名	佐久間川		環境基準																																																																																																																											
調査地点	勝山橋																																																																																																																													
類型	-		-																																																																																																																											
調査項目	測定値	m/n																																																																																																																												
pH	7.6~7.8	-	6.5以上8.5以下																																																																																																																											
DO(mg/L)	6.0~10.0	-	7.5以上																																																																																																																											
BOD(mg/L)	0.9~1.3	-	2以下																																																																																																																											
COD(mg/L)	5.5~7.6	-	-																																																																																																																											
SS(mg/L)	5~21	-	25以下																																																																																																																											
大腸菌群数(MPN/100mL)	7,000~170,000	-	1,000以下																																																																																																																											
全窒素(mg/L)	0.9~1.3	-	-																																																																																																																											
全リン(mg/L)	0.20~0.33	-	-																																																																																																																											
全亜鉛(mg/L)	0.003~0.006	-	0.03以下																																																																																																																											
ノニルフェノール(mg/L)	-	-	0.0006以下																																																																																																																											
AS(mg/L)	-	-	0.02以下																																																																																																																											
P4.1-40 第4章 4.1.5 表 4.1-16	<p>【表タイトルの修正】</p> <p>表 4.1-16 重要な動物種の状況</p>	<p>【表タイトルの修正】</p> <p>表 4.1-16 重要な動物種の状況(哺乳類)</p>																																																																																																																												
P4.1-53 第4章 4.1	<p>【項目名の変更】</p> <p>多足類</p>	<p>【項目名の変更】</p> <p>ヤスデ類</p>																																																																																																																												

表 15.1-2(4) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P4. 1-93 第4章 4.1.6 図 4.1-22(2)	【図の修正】 首都圏自然歩道関東触れ合いの道 (東京湾を望むみち) —	【図の修正】 <u>関東ふれあいの道 (首都圏自然歩道)</u> <u>東京湾を望むみち</u> 凡例の順序の変更
P4. 2-18 第4章 4.2.4 図 4.2-8	【図の修正】 鋸山山頂駅	【図の修正】 山頂駅
P4. 2-24 第4章 4.2.5 図 4.2-9	【図の修正】 3、19、36	【図の修正】 <u>4、13、19、36</u>
P4. 2-61 第4章 4.2.7 図 4.2-15(1)	【図タイトルの修正】 図 4.2-15(1) 砂防指定地、地すべり 防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、山 地災害危険区図	【図タイトルの修正】 図 4.2-15(1) 砂防指定地、地すべり 防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、山 地災害危険 <u>地区</u> 図
P4. 2-61 第4章 4.2.7 図 4.2-15(1)	【図の修正】 凡例 急傾斜地指定区域	【図の修正】 凡例 急傾斜地 <u>崩壊危険</u> 区域
P10. 1-2 第10章 10.1 表 10.1.1-2	【注釈の追加】 —	【注釈の追加】 <u>※令和2年度以降、NO₂は測定されて いないがSPMは測定されている。</u>
P10. 1-4 第10章 10.1 表 10.1.1-4	【表の修正】 「項目」	【表の修正】 「 <u>調査</u> 項目」
P10. 1-5 第10章 10.1 図 10.1.1-2	【用語説明の修正】 *風配図とは、ある地点の風向(風速) の統計的性質を示すために用いられ る。各方位別に風向(風速)の出現頻 度を線分の長さで示したものの。	【用語説明の修正】 *風配図とは、ある地点の風向(風 速)の統計的性質を示すために用い られる。各方位別に風向(風速)の出 現頻度を線分の長さで示したもの。 <u>なお、図では風配図に風向別平均風 速も記載している。</u>
P10. 1-11 第10章 10.1 図 10.1.1-3(4)	【図の修正】 平均風速：21m/s、静穏率：0.7	【図の修正】 平均風速：2 <u>1</u> m/s、静穏率：0. <u>7</u> %
P10. 1-18 第10章 10.1	【5行目～6行目】 坑内濃度は、以下の式により時間別平 均排出量を算定し、トンネル延長を乗 じることで、トンネル坑口からの排出 量を求めます。	【5行目～6行目】 坑内濃度は、以下の式により時間別 平均排出量を算定し、 <u>トンネル延長</u> <u>を乗じて求めたトンネル坑口からの</u> <u>排出量に基づき、算定されます。</u>
P10. 1-19 第10章 10.1 表 10.1.1-8	【表タイトルの修正】 トンネル風の距離減衰パラメータ k	【表タイトルの修正】 トンネル風の減衰パラメータ k
P10. 1-32 第10章 10.1 図 10.1.1- 10(4)	【図の修正】 —	【図の修正】 トンネル部を着色しました。

表 15.1-2(5) その他、準備書からの主な修正内容

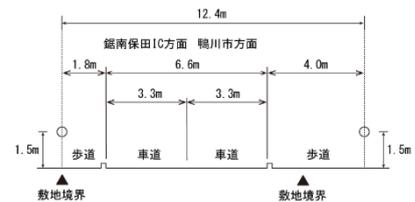
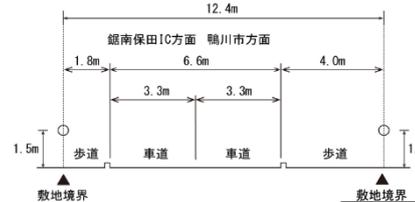
評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P10.1-39 第10章10.1	【3行目～4行目】 予測には、予測地域に最寄りの鋸南下佐久間測定局の風向・風速データを用いました。	【3行目～4行目】 予測には、 <u>年間を通して測定しており、予測地域に最寄りであることからより地域の大気質の状況を代表すると考えられる</u> 鋸南下佐久間測定局の風向・風速データを用いました。
P10.1-46～49 第10章10.1 表10.1.1-23(1),(2) 表10.1.1-24(1)(2)	【タイトル行】 環境基準	【タイトル行】 <u>整合を図るべき基準又は目標</u>
P10.1-47,49,52,53 第10章10.1 表10.1.1-23(2) 表10.1.1-24(2) 表10.1.1-26(2) 表10.1.1-27(2)	【整合を図るべき基準又は目標】 1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であること。	【整合を図るべき基準又は目標】 <u>【環境基準】</u> 1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であること。
P10.1-46,47,51,52 第10章10.1 表10.1.1-23(1) 表10.1.1-23(2) 表10.1.1-26(1) 表10.1.1-26(2)	【予測地点】 ハイウェイオアシス富楽里南側	【予測地点】 ハイウェイオアシス富楽里南側 <u>付近</u>
P10.1-64 第10章10.1	【2行目～3行目】 建設機械の稼働時間は、8:00～12:00、13:00～17:00 としました。 また、建設機械の稼働日数は、25日/月としました。	【2行目～3行目】 建設機械の稼働時間は、8:00～12:00、13:00～17:00 としました。 また、建設機械の稼働日数は、 <u>22日/月</u> としました。
P10.1-74 第10章10.1 図10.1.3-4(4)	【図の修正】 	【図の修正】 
P10.1-78 第10章10.1 表10.1.3-7(2)	【表の修正】 タイヤ洗浄の排水により、水の濁りの影響がある。	【表の修正】 タイヤ洗浄の排水により、水の濁りへの影響が <u>生じるおそれ</u> がある
P10.2-10 第10章10.2	【11行目】 $L_{A,i} = L_{WA,i} - 8 - 20 \log_{10} r_i + \Delta L_{dif,i} + \Delta L_{grnd,i}$	【11行目】 $L_{A,i} = L_{WA,i} - 8 - 20 \log_{10} r_i + \Delta L_{dif,i} + \Delta L_{grnd,i} + \Delta L_{air,i}$

表 15.1-2(6) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P10.2-10 第10章10.2	【18行目】 －	【18行目】 <u>$\Delta L_{air,i}$: 空気の音響吸収による減衰に関する補正量 (dB)</u>
P10.2-11 第10章10.2	【8行目, 12行目】 －	【8行目, 12行目】 <u>ナイフウェッジ (遮音壁での基本量)</u> <u>直角ウェッジ (建物、法肩での基本量)</u>
P10.2-12 第10章10.2	【14行目】 本予測では沿道の地表面の種類を全て固い地面として設定し、	【14行目】 <u>悪条件側を考慮し、本予測では沿道の地表面の種類を全て固い地面として設定し、</u>
P10.2-15 第10章10.2	【5行目】 $L_{AE} = 10 \log_{10} \left(\frac{1}{T_0} \sum_i 10^{\frac{L_{A,i}}{10}} \Delta t_i \right)$	【5行目】 $L_{AE} = 10 \log_{10} \frac{\Delta t \sum_{n=n_1}^{n_2} 10^{\frac{L_{AE}[n]}{10}}}{T_0}$
P10.2-15 第10章10.2	【12行目】 1秒 (基準の時間)、 $\Delta t_i = \Delta l_i / V_i$ (s)	【12行目】 1秒 (基準の時間)
P10.2-15 第10章10.2	【13行目】 Δl_i : i番目の区間の長さ (m)	【13行目】 <u>Δt : $L_{A,i}$ のサンプリング間隔 (s)</u>
P10.2-15 第10章10.2	【14行目】 V_i : i番目の区間における自動車の走行速度 (m/s)	【14行目】 <u>n_1, n_2 : t_1 及び t_2 に対応するサンプル</u>
P10.2-15 第10章10.2	【21行目】 $L_{Aeq} = 10 \log_{10} \left(\frac{N}{3600} \cdot 10^{L_{AE}/10} \right)$ $= L_{AE} + 10 \log_{10} N - 35.6$	【21行目】 $L_{Aeq,T} = 10 \log_{10} \frac{\sum_j N_{T,j} 10^{\frac{L_{AE,j}}{10}}}{T}$
P10.2-15 第10章10.2	【26行目～27行目】 N : 時間交通量 (台/時)	【26行目～27行目】 <u>T : 対象とする時間 (s)</u> <u>$N_{T,j}$: 時間 T における車種 j の交通量 (台)</u>
P10.2-45 第10章10.2	【11行目】 $L_{A,eff,i} = L_{WA,eff,i} - 8 - 20 \log_{10} r_i + \Delta L_{d,i} + \Delta L_{g,i}$	【11行目】 $L_{A,eff,i} = L_{WA,eff,i} - 8 - 20 \log_{10} r_i + \Delta L_{d,i} + \Delta L_{g,i} + \Delta L_{air} + \Delta L_{etc}$
P10.2-46 第10章10.2	【1行目～2行目】 －	【1行目～2行目】 <u>ΔL_{air} : 空気の音響吸収の影響に関する補正量</u> <u>ΔL_{etc} : その他の影響要因に関する補正量</u>
P10.2-49 第10章10.2	【6行目～7行目】 種別毎の主な作業内容と使用する主な建設機械及び工事用車両を表10.2.2-5(2)に示します。	【6行目～7行目】 種別毎の主な作業内容と使用する主な建設機械を表10.2.2-5(2)に示します。

表 15.1-2(7) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P10.2-49, 50, 53 第10章 10.2 表 10.2.2-5(1) 表 10.2.2-5(2) 表 10.2.2-6 表 10.2.2-7 表 10.2.2-12	【表の修正】 盛土工（切土）	【表の修正】 <u>切土工・盛土工</u>
P10.2-52 第10章 10.2 表 10.2.2-10(1)	【表の修正】 大気質・振動への影響も低減される。	【表の修正】 大気質・振動・ <u>動物・生態系</u> への影響も低減される
P10.2-52 第10章 10.2 表 10.2.2-10(3)	【表の修正】 大気質への影響も低減される。日照への影響が生じるおそれがある。	【表の修正】 大気質・ <u>動物・生態系</u> への影響も低減される。日照への影響が生じるおそれがある
P10.2-53 P10.2-63 第10章 10.2 P10.3-27 P10.3-38 第10章 10.3	(2) 基準又は目標との整合性の評価	(2) 基準又は目標との整合性に <u>係る</u> 評価
P10.3-11, 12 第10章 10.3 図 10.3.1-4(1)(2)(3)(5)(6)	【図タイトルの修正】 自動車の走行に係る予測横断図	【図タイトルの修正】 自動車の走行に係る <u>振動</u> 予測横断図
P10.3-16 第10章 10.3	【4行目】 予測結果より、自動車の走行に係る振動に関しては「振動規制法施行規則」（昭和51年11月10日、総理府令第58号）による道路交通振動の限度を下回り、影響は極めて小さいと考えられるため、環境保全措置は行わないものとします。	【4行目】 予測結果より、自動車の走行に係る振動に関しては「振動規制法施行規則」（昭和51年11月10日、総理府令第58号）による道路交通振動の限度を下回り、 <u>影響は小さい</u> と考えられるため、環境保全措置は行わないものとします。
P10.3-23, 24, 25, 27 第10章 10.3 表 10.3.2-6(1) 表 10.3.2-6(2) 表 10.3.2-7 表 10.3.2-8 表 10.3.2-9 表 10.3.2-13	【表の修正】 盛土工（切土）	【表の修正】 <u>切土工・盛土工</u>

表 15.1-2(8) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書																																																																																																																				
P10.3-36 第10章10.3 表10.3.3-6	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>予測地点</th> <th>地盤種別</th> <th>地盤卓越振動数</th> <th>現地調査地点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>県道258号富山丸山線</td> <td>砂地盤</td> <td>18.6Hz</td> <td>南房総市竹内29-3地先</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>県道89号鴨川富山線</td> <td>砂地盤</td> <td>18.4Hz</td> <td>南房総市二部636-1地先</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>県道184号外野橋山線</td> <td>砂地盤</td> <td>15.3Hz</td> <td>南房総市輪磯谷348地先</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>県道34号鴨川保田線</td> <td>砂地盤</td> <td>14.3Hz</td> <td>安房郡南房総町保田1001地先</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>県道237号浜金谷停車場線</td> <td>砂地盤</td> <td>23.3Hz</td> <td>富津中金谷3061-7地先</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>県道91号竹岡インター線</td> <td>砂地盤</td> <td>22.3Hz</td> <td>富津市竹岡3014地先</td> </tr> </tbody> </table>	記号	予測地点	地盤種別	地盤卓越振動数	現地調査地点	A	県道258号富山丸山線	砂地盤	18.6Hz	南房総市竹内29-3地先	B	県道89号鴨川富山線	砂地盤	18.4Hz	南房総市二部636-1地先	C	県道184号外野橋山線	砂地盤	15.3Hz	南房総市輪磯谷348地先	D	県道34号鴨川保田線	砂地盤	14.3Hz	安房郡南房総町保田1001地先	E	県道237号浜金谷停車場線	砂地盤	23.3Hz	富津中金谷3061-7地先	F	県道91号竹岡インター線	砂地盤	22.3Hz	富津市竹岡3014地先	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>予測地点</th> <th>地盤種別</th> <th>地盤卓越振動数</th> <th>現地調査地点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>県道258号富山丸山線</td> <td>砂地盤</td> <td>19Hz</td> <td>南房総市竹内29-3地先</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>県道89号鴨川富山線</td> <td>砂地盤</td> <td>18Hz</td> <td>南房総市二部636-1地先</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>県道184号外野橋山線</td> <td>砂地盤</td> <td>15Hz</td> <td>南房総市輪磯谷348地先</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>県道34号鴨川保田線</td> <td>砂地盤</td> <td>14Hz</td> <td>安房郡南房総町保田1001地先</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>県道237号浜金谷停車場線</td> <td>砂地盤</td> <td>24Hz</td> <td>富津市中金谷3061-7地先</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>県道91号竹岡インター線</td> <td>砂地盤</td> <td>23Hz</td> <td>富津市竹岡3014地先</td> </tr> </tbody> </table>	記号	予測地点	地盤種別	地盤卓越振動数	現地調査地点	A	県道258号富山丸山線	砂地盤	19Hz	南房総市竹内29-3地先	B	県道89号鴨川富山線	砂地盤	18Hz	南房総市二部636-1地先	C	県道184号外野橋山線	砂地盤	15Hz	南房総市輪磯谷348地先	D	県道34号鴨川保田線	砂地盤	14Hz	安房郡南房総町保田1001地先	E	県道237号浜金谷停車場線	砂地盤	24Hz	富津市中金谷3061-7地先	F	県道91号竹岡インター線	砂地盤	23Hz	富津市竹岡3014地先																																														
記号	予測地点	地盤種別	地盤卓越振動数	現地調査地点																																																																																																																		
A	県道258号富山丸山線	砂地盤	18.6Hz	南房総市竹内29-3地先																																																																																																																		
B	県道89号鴨川富山線	砂地盤	18.4Hz	南房総市二部636-1地先																																																																																																																		
C	県道184号外野橋山線	砂地盤	15.3Hz	南房総市輪磯谷348地先																																																																																																																		
D	県道34号鴨川保田線	砂地盤	14.3Hz	安房郡南房総町保田1001地先																																																																																																																		
E	県道237号浜金谷停車場線	砂地盤	23.3Hz	富津中金谷3061-7地先																																																																																																																		
F	県道91号竹岡インター線	砂地盤	22.3Hz	富津市竹岡3014地先																																																																																																																		
記号	予測地点	地盤種別	地盤卓越振動数	現地調査地点																																																																																																																		
A	県道258号富山丸山線	砂地盤	19Hz	南房総市竹内29-3地先																																																																																																																		
B	県道89号鴨川富山線	砂地盤	18Hz	南房総市二部636-1地先																																																																																																																		
C	県道184号外野橋山線	砂地盤	15Hz	南房総市輪磯谷348地先																																																																																																																		
D	県道34号鴨川保田線	砂地盤	14Hz	安房郡南房総町保田1001地先																																																																																																																		
E	県道237号浜金谷停車場線	砂地盤	24Hz	富津市中金谷3061-7地先																																																																																																																		
F	県道91号竹岡インター線	砂地盤	23Hz	富津市竹岡3014地先																																																																																																																		
P10.4-1 第10章10.4	<p>【11行目】</p> <p>調査は現地調査及び資料調査により行いました。現地調査は低周波音の状況について調査を行いました。現地調査の調査手法を表10.4.1-1に示します。資料調査は、住居等の位置について住宅地図等の住居の状況を把握できる資料の収集・整理を行いました。</p>	<p>【11行目】</p> <p>調査は既存資料調査及び現地調査により行いました。現地調査は低周波音の状況について調査を行いました。現地調査の調査手法を表10.4.1-1に示します。既存資料調査は、住居等の位置について住宅地図等の住居の状況を把握できる資料の収集・整理を行いました。</p>																																																																																																																				
P10.4-1 第10章10.4	<p>【17行目】</p> <p>調査地域は、道路構造が橋又は高架であり、影響範囲内に住居等の保全対象が立地、あるいは立地することが予定されている地域としました。</p>	<p>【17行目】</p> <p>調査地域は、道路構造が橋梁又は高架であり、影響範囲内に住居等の保全対象が立地、あるいは立地することが予定されている地域としました。</p>																																																																																																																				
P10.4-16 第10章10.4	<p>【17行目】</p> <p>(2) 基準又は目標との整合性の検討</p>	<p>【17行目】</p> <p>(2) 基準又は目標との整合性に係る評価</p>																																																																																																																				
P10.5-3 第10章5.1 図10.5.1-1	<p>【図の修正】</p> <p>—</p>	<p>【図の修正】</p> <p>図中の調査地点の名称を表10.5.1-2の記載と一致するよう修正</p>																																																																																																																				
P10.5-5 第10章5.1 表10.5.1-4	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>浮遊物質量 (SS) (mg/l)</th> <th>水素イオン濃度 (pH)</th> <th>流量 (m³/秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">平成橋</td> <td>最小値~最大値</td> <td>2~20</td> <td>7.9~8.4</td> <td>0.0~2.4</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>9.2</td> <td>8.1</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">横峯大橋</td> <td>最小値~最大値</td> <td>2~22</td> <td>8.0~8.8</td> <td>0.2~0.4</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>9</td> <td>8.4</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">池田橋</td> <td>最小値~最大値</td> <td>1~3</td> <td>7.9~8.5</td> <td>0.0~0.1</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>1.6</td> <td>8.1</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">勝山橋 鋸南町</td> <td>最小値~最大値</td> <td>5~21</td> <td>7.6~7.8</td> <td>0.3~0.9</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>12.8</td> <td>7.7</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">湊橋</td> <td>最小値~最大値</td> <td>1~11</td> <td>7.8~8.1</td> <td>1.4~13.9</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>3.5</td> <td>7.9</td> <td>8.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">丹後橋</td> <td>最小値~最大値</td> <td>1~12</td> <td>8.0~8.2</td> <td>0.5~2.6</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>5.8</td> <td>8.1</td> <td>1.3</td> </tr> </tbody> </table>	調査地点	浮遊物質量 (SS) (mg/l)	水素イオン濃度 (pH)	流量 (m ³ /秒)	平成橋	最小値~最大値	2~20	7.9~8.4	0.0~2.4	平均値	9.2	8.1	1.1	横峯大橋	最小値~最大値	2~22	8.0~8.8	0.2~0.4	平均値	9	8.4	0.3	池田橋	最小値~最大値	1~3	7.9~8.5	0.0~0.1	平均値	1.6	8.1	0.1	勝山橋 鋸南町	最小値~最大値	5~21	7.6~7.8	0.3~0.9	平均値	12.8	7.7	0.6	湊橋	最小値~最大値	1~11	7.8~8.1	1.4~13.9	平均値	3.5	7.9	8.9	丹後橋	最小値~最大値	1~12	8.0~8.2	0.5~2.6	平均値	5.8	8.1	1.3	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>浮遊物質量 (SS) (mg/l)</th> <th>水素イオン濃度 (pH)</th> <th>流量 (m³/秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">平成橋</td> <td>最小値~最大値</td> <td>2~20</td> <td>7.9~8.4</td> <td>0.0~2.4</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>9.8</td> <td>8.1</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">横峯大橋</td> <td>最小値~最大値</td> <td>2~22</td> <td>8.0~8.8</td> <td>0.2~0.4</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>9</td> <td>8.4</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">池田橋</td> <td>最小値~最大値</td> <td>1~3</td> <td>7.9~8.5</td> <td>0.0~0.1</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>1.2</td> <td>8.1</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">勝山橋</td> <td>最小値~最大値</td> <td>5~21</td> <td>7.6~7.8</td> <td>0.3~0.9</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>12.8</td> <td>7.7</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">湊橋</td> <td>最小値~最大値</td> <td>1~11</td> <td>7.8~8.1</td> <td>1.4~13.9</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>3.5</td> <td>7.9</td> <td>8.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">丹後橋</td> <td>最小値~最大値</td> <td>1~12</td> <td>8.0~8.2</td> <td>0.5~2.6</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>5.8</td> <td>8.1</td> <td>1.3</td> </tr> </tbody> </table>	調査地点	浮遊物質量 (SS) (mg/l)	水素イオン濃度 (pH)	流量 (m ³ /秒)	平成橋	最小値~最大値	2~20	7.9~8.4	0.0~2.4	平均値	9.8	8.1	1.2	横峯大橋	最小値~最大値	2~22	8.0~8.8	0.2~0.4	平均値	9	8.4	0.3	池田橋	最小値~最大値	1~3	7.9~8.5	0.0~0.1	平均値	1.2	8.1	0.1	勝山橋	最小値~最大値	5~21	7.6~7.8	0.3~0.9	平均値	12.8	7.7	0.6	湊橋	最小値~最大値	1~11	7.8~8.1	1.4~13.9	平均値	3.5	7.9	8.9	丹後橋	最小値~最大値	1~12	8.0~8.2	0.5~2.6	平均値	5.8	8.1	1.3
調査地点	浮遊物質量 (SS) (mg/l)	水素イオン濃度 (pH)	流量 (m ³ /秒)																																																																																																																			
平成橋	最小値~最大値	2~20	7.9~8.4	0.0~2.4																																																																																																																		
	平均値	9.2	8.1	1.1																																																																																																																		
横峯大橋	最小値~最大値	2~22	8.0~8.8	0.2~0.4																																																																																																																		
	平均値	9	8.4	0.3																																																																																																																		
池田橋	最小値~最大値	1~3	7.9~8.5	0.0~0.1																																																																																																																		
	平均値	1.6	8.1	0.1																																																																																																																		
勝山橋 鋸南町	最小値~最大値	5~21	7.6~7.8	0.3~0.9																																																																																																																		
	平均値	12.8	7.7	0.6																																																																																																																		
湊橋	最小値~最大値	1~11	7.8~8.1	1.4~13.9																																																																																																																		
	平均値	3.5	7.9	8.9																																																																																																																		
丹後橋	最小値~最大値	1~12	8.0~8.2	0.5~2.6																																																																																																																		
	平均値	5.8	8.1	1.3																																																																																																																		
調査地点	浮遊物質量 (SS) (mg/l)	水素イオン濃度 (pH)	流量 (m ³ /秒)																																																																																																																			
平成橋	最小値~最大値	2~20	7.9~8.4	0.0~2.4																																																																																																																		
	平均値	9.8	8.1	1.2																																																																																																																		
横峯大橋	最小値~最大値	2~22	8.0~8.8	0.2~0.4																																																																																																																		
	平均値	9	8.4	0.3																																																																																																																		
池田橋	最小値~最大値	1~3	7.9~8.5	0.0~0.1																																																																																																																		
	平均値	1.2	8.1	0.1																																																																																																																		
勝山橋	最小値~最大値	5~21	7.6~7.8	0.3~0.9																																																																																																																		
	平均値	12.8	7.7	0.6																																																																																																																		
湊橋	最小値~最大値	1~11	7.8~8.1	1.4~13.9																																																																																																																		
	平均値	3.5	7.9	8.9																																																																																																																		
丹後橋	最小値~最大値	1~12	8.0~8.2	0.5~2.6																																																																																																																		
	平均値	5.8	8.1	1.3																																																																																																																		
P10.5-5 第10章5.1 表10.5.1-5	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>調査地点</th> <th>浮遊物質量 (SS) (mg/l)</th> <th>水素イオン濃度 (pH)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>G</td> <td>金谷川 ふじみ橋</td> <td>4</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>H</td> <td>白狐川 竹岡小下</td> <td>10</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>I</td> <td>湊川(相川) 一川橋</td> <td>4</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>J</td> <td>湊川(志駒川) 櫻橋</td> <td>4</td> <td>8.5</td> </tr> </tbody> </table>	番号	調査地点	浮遊物質量 (SS) (mg/l)	水素イオン濃度 (pH)	G	金谷川 ふじみ橋	4	8.0	H	白狐川 竹岡小下	10	8.5	I	湊川(相川) 一川橋	4	8.4	J	湊川(志駒川) 櫻橋	4	8.5	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>調査地点</th> <th>浮遊物質量 (SS) (mg/l)</th> <th>水素イオン濃度 (pH)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>G</td> <td>金谷川 ふじみ橋</td> <td>2</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>H</td> <td>白狐川 竹岡小下</td> <td>10</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>I</td> <td>湊川(相川) 一川橋</td> <td>4</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>J</td> <td>湊川(志駒川) 櫻橋</td> <td>4</td> <td>8.5</td> </tr> </tbody> </table>	番号	調査地点	浮遊物質量 (SS) (mg/l)	水素イオン濃度 (pH)	G	金谷川 ふじみ橋	2	8.0	H	白狐川 竹岡小下	10	8.5	I	湊川(相川) 一川橋	4	8.4	J	湊川(志駒川) 櫻橋	4	8.5																																																																												
番号	調査地点	浮遊物質量 (SS) (mg/l)	水素イオン濃度 (pH)																																																																																																																			
G	金谷川 ふじみ橋	4	8.0																																																																																																																			
H	白狐川 竹岡小下	10	8.5																																																																																																																			
I	湊川(相川) 一川橋	4	8.4																																																																																																																			
J	湊川(志駒川) 櫻橋	4	8.5																																																																																																																			
番号	調査地点	浮遊物質量 (SS) (mg/l)	水素イオン濃度 (pH)																																																																																																																			
G	金谷川 ふじみ橋	2	8.0																																																																																																																			
H	白狐川 竹岡小下	10	8.5																																																																																																																			
I	湊川(相川) 一川橋	4	8.4																																																																																																																			
J	湊川(志駒川) 櫻橋	4	8.5																																																																																																																			

表 15.1-2(9) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	修正前の評価書																																																																																																																																																																																																																																
P10. 5-6 第 10 章 5. 1 表 10. 5. 1-6	【表の修正】 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">令和 5 年</th> <th colspan="3">全期間</th> </tr> <tr> <th>1 月</th> <th>2 月</th> <th>3 月</th> <th>4 月</th> <th>5 月</th> <th>最小</th> <th>最大</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>8</td><td>5</td><td>4</td><td>22</td><td>14</td><td>4</td><td>67</td><td>20</td></tr> <tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>15</td><td>20</td><td>3</td><td>58</td><td>17</td></tr> <tr><td>3</td><td>2</td><td>6</td><td>44</td><td>12</td><td>2</td><td>44</td><td>12</td></tr> <tr><td>5</td><td>16</td><td>17</td><td>51</td><td>18</td><td>5</td><td>51</td><td>16</td></tr> <tr><td>7</td><td>10</td><td>5</td><td>19</td><td>7</td><td>1</td><td>19</td><td>8</td></tr> <tr><td>4</td><td>17</td><td>28</td><td>14</td><td>8</td><td>1></td><td>28</td><td>12</td></tr> <tr><td>1</td><td>1></td><td>1></td><td>1></td><td>64</td><td>1></td><td>64</td><td>10</td></tr> <tr><td>4</td><td>1></td><td>1</td><td>1</td><td>30</td><td>1></td><td>30</td><td>5</td></tr> <tr><td>10</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td>10</td><td>2</td></tr> <tr><td>1></td><td>1></td><td>11</td><td>1</td><td>7</td><td>1></td><td>16</td><td>5</td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>14</td><td>12</td><td>1></td><td>14</td><td>5</td></tr> <tr><td>4</td><td>4</td><td>8</td><td>21</td><td>15</td><td>3</td><td>21</td><td>8</td></tr> </tbody> </table>	令和 5 年					全期間			1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	最小	最大	平均	8	5	4	22	14	4	67	20	5	4	3	15	20	3	58	17	3	2	6	44	12	2	44	12	5	16	17	51	18	5	51	16	7	10	5	19	7	1	19	8	4	17	28	14	8	1>	28	12	1	1>	1>	1>	64	1>	64	10	4	1>	1	1	30	1>	30	5	10	1	3	1	3	1	10	2	1>	1>	11	1	7	1>	16	5	1	2	1	14	12	1>	14	5	4	4	8	21	15	3	21	8	【表の修正】 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">令和 5 年</th> <th colspan="3">全期間</th> </tr> <tr> <th>1 月</th> <th>2 月</th> <th>3 月</th> <th>4 月</th> <th>5 月</th> <th>最小</th> <th>最大</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>8</td><td>5</td><td>4</td><td>22</td><td>14</td><td>4</td><td>67</td><td>20</td></tr> <tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>15</td><td>20</td><td>3</td><td>58</td><td>17</td></tr> <tr><td>3</td><td>2</td><td>6</td><td>44</td><td>12</td><td>2</td><td>44</td><td>12</td></tr> <tr><td>5</td><td>16</td><td>17</td><td>51</td><td>18</td><td>5</td><td>51</td><td>16</td></tr> <tr><td>7</td><td>10</td><td>5</td><td>19</td><td>7</td><td>1</td><td>19</td><td>8</td></tr> <tr><td>4</td><td>17</td><td>28</td><td>14</td><td>8</td><td>1></td><td>28</td><td>11</td></tr> <tr><td>1</td><td>1></td><td>1></td><td>1></td><td>64</td><td>1></td><td>64</td><td>7</td></tr> <tr><td>4</td><td>1></td><td>1</td><td>1</td><td>30</td><td>1></td><td>30</td><td>4</td></tr> <tr><td>10</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td><td>1></td><td>10</td><td>2</td></tr> <tr><td>1></td><td>1></td><td>11</td><td>1</td><td>7</td><td>1></td><td>16</td><td>4</td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>14</td><td>12</td><td>1></td><td>14</td><td>5</td></tr> <tr><td>4</td><td>4</td><td>8</td><td>21</td><td>15</td><td>3</td><td>21</td><td>8</td></tr> </tbody> </table>	令和 5 年					全期間			1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	最小	最大	平均	8	5	4	22	14	4	67	20	5	4	3	15	20	3	58	17	3	2	6	44	12	2	44	12	5	16	17	51	18	5	51	16	7	10	5	19	7	1	19	8	4	17	28	14	8	1>	28	11	1	1>	1>	1>	64	1>	64	7	4	1>	1	1	30	1>	30	4	10	1	3	1	3	1>	10	2	1>	1>	11	1	7	1>	16	4	1	2	1	14	12	1>	14	5	4	4	8	21	15	3	21	8
令和 5 年					全期間																																																																																																																																																																																																																													
1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	最小	最大	平均																																																																																																																																																																																																																											
8	5	4	22	14	4	67	20																																																																																																																																																																																																																											
5	4	3	15	20	3	58	17																																																																																																																																																																																																																											
3	2	6	44	12	2	44	12																																																																																																																																																																																																																											
5	16	17	51	18	5	51	16																																																																																																																																																																																																																											
7	10	5	19	7	1	19	8																																																																																																																																																																																																																											
4	17	28	14	8	1>	28	12																																																																																																																																																																																																																											
1	1>	1>	1>	64	1>	64	10																																																																																																																																																																																																																											
4	1>	1	1	30	1>	30	5																																																																																																																																																																																																																											
10	1	3	1	3	1	10	2																																																																																																																																																																																																																											
1>	1>	11	1	7	1>	16	5																																																																																																																																																																																																																											
1	2	1	14	12	1>	14	5																																																																																																																																																																																																																											
4	4	8	21	15	3	21	8																																																																																																																																																																																																																											
令和 5 年					全期間																																																																																																																																																																																																																													
1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	最小	最大	平均																																																																																																																																																																																																																											
8	5	4	22	14	4	67	20																																																																																																																																																																																																																											
5	4	3	15	20	3	58	17																																																																																																																																																																																																																											
3	2	6	44	12	2	44	12																																																																																																																																																																																																																											
5	16	17	51	18	5	51	16																																																																																																																																																																																																																											
7	10	5	19	7	1	19	8																																																																																																																																																																																																																											
4	17	28	14	8	1>	28	11																																																																																																																																																																																																																											
1	1>	1>	1>	64	1>	64	7																																																																																																																																																																																																																											
4	1>	1	1	30	1>	30	4																																																																																																																																																																																																																											
10	1	3	1	3	1>	10	2																																																																																																																																																																																																																											
1>	1>	11	1	7	1>	16	4																																																																																																																																																																																																																											
1	2	1	14	12	1>	14	5																																																																																																																																																																																																																											
4	4	8	21	15	3	21	8																																																																																																																																																																																																																											
P10. 5-16 第 10 章 5. 1 表 10. 5. 1-17(3)	【表の修正】 公共用水域への排出口より上流の都市計画対象道路事業実施区域	【表の修正】 公共用水域への排出口より上流の <u>対象事業実施区域</u>																																																																																																																																																																																																																																
P10. 6-3 第 10 章 6. 1 図 10. 6. 1-1	【図の修正】 —	【図の修正】 図中の調査地点の名称を表 10. 6. 1-2 の記載と一致するよう修正																																																																																																																																																																																																																																
P10. 6-9 第 10 章 6. 1 図 10. 6. 1-4	【図タイトルの修正】 ダム、ため池の位置図	【図タイトルの修正】 <u>河川、ダム、ため池、地下水井戸</u> の位置図																																																																																																																																																																																																																																
P10. 8-18 第 10 章 8. 1	【9 行目～10 行目】 No. 9 は、標高 7m～8. 5m の範囲にあり、	【9 行目～10 行目】 No. 9 は、標高 <u>8. 5m～7m</u> の範囲にあり、																																																																																																																																																																																																																																
P10. 8-45, 49, 53 第 10 章 8. 1 表 10. 8-16 表 10. 8-20 表 10. 8-24	【表の修正】 —	【表の修正】 透水係数の表記を修正しました。																																																																																																																																																																																																																																
P10. 9-9 第 10 章 10. 9	【6 行目】 予測結果より、道路（嵩上式）の存在に係る日照障害に関しては、「参考となる指標」を下回り、影響が極めて小さいと考えられるため、環境保全措置は行わないものとします。	【6 行目】 予測結果より、道路（嵩上式）の存在に係る日照障害に関しては、「参考となる指標」を下回り、影響は小さいと考えられるため、環境保全措置は行わないものとします。																																																																																																																																																																																																																																
P10. 10-1 第 10 章 10. 1	【2 行目】 地表式または嵩上式	【2 行目】 地表式、嵩上式、地下式																																																																																																																																																																																																																																
P10. 10-13 第 10 章 10. 1	【1 行目】 現地調査及び既存資料で確認された重要な哺乳類とその選定理由を表 10. 10-7 に示します。	【1 行目】 現地調査及び既存資料 <u>調査</u> で確認された重要な哺乳類とその選定理由を表 10. 10-7 に示します。																																																																																																																																																																																																																																
P10. 10-15 第 10 章 10. 1 表 10. 10-9	【表の合計の追加】 —	【表の合計の追加】 <table border="1"> <tr> <td>合計</td> <td>4 科 10 種</td> <td>—</td> </tr> </table>	合計	4 科 10 種	—																																																																																																																																																																																																																													
合計	4 科 10 種	—																																																																																																																																																																																																																																

表 15.1-2(10) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P10.10-18 第10章10.1 表10.10-10(3)	【表の修正】 24科	【表の修正】 <u>34科</u>
P10.10-160, 161 第10章10.1 表10.10-37 (22)(23)	【表の修正：水田に係る記載の削除】 (工事の実施：4行目以降) (前略) 水田では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは計画路線区域内を極力利用し、工所用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、また、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、水田では、濁水の発生に留意した工法を検討することから、水質の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。さらに、水田は人為的に水位等を管理された環境であることから、工事の実施による水量の変化は生じないと考えられます。 (後略) (存在・供用：4行目以降) (前略) 水田では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、水田は、人為的に水位等を管理された環境であることから、道路の存在・供用による水量の変化は生じないと考えられます。 (後略)	【表の修正：水田に係る記載の削除】 (工事の実施：4行目～11行目) (存在・供用：4行目～7行目)
P10.10-243 第10章10.1 表10.10-43(2)	【表の修正】 低騒音型・低振動型の建設機械を使用することにより、騒音・振動による影響を低減することで、調査区域に生息する種への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。	【表の修正】 低騒音型・低振動型の建設機械を使用することにより、騒音・振動による影響を低減することで、 <u>計画路線周辺</u> に生息する種への影響の低減が見込まれることから、本環境保全措置を採用する。
P10-10-243, 245 第10章10.1 表10.10-43(2) 表10.10-44 (6), (7)	【表の修正】 水生生物や水辺の動物 水生生物、水辺の動物	【表の修正】 水生生物 <u>(魚類・底生動物等)</u>
P10.10-244 第10章10.1 表10.10-44(2)	【表の修正】 都市計画対象道路	【表の修正】 <u>対象事業実施区域</u>

表 15.1-2(11) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書																														
P10. 10-245 第 10 章 10. 1 表 10. 10-44(6)	【表の修正】 対象事業実施区域の水域(河川及び水路)	【表の修正】 <u>対象事業実施区域</u>																														
P10. 10-245 第 10 章 10. 1 表 10. 10-44(8)	【表の修正】 夜間に工事を行う工事施工ヤード	【表の修正】 <u>夜間に工事を行う箇所</u>																														
P10. 10-246 第 10 章 10. 1 表 10. 10-45	【表の修正】 直接確認による生息状況の確認	【表の修正】 直接 <u>観察</u> による生息状況の確認																														
P10. 11-1 第 10 章 11. 1	【3 行目】 地表式または嵩上式または地下式	【3 行目】 <u>地表式、嵩上式、地下式</u>																														
P10. 11-12 第 10 章 11. 1 表 10. 11-8(2)	【表の修正】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>裸子植物 双子葉植物 離弁花類</td> </tr> <tr> <td>被子植物 双子葉植物 離弁花類</td> </tr> <tr> <td>被子植物 双子葉植物 離弁花類</td> </tr> </tbody> </table>	分類	裸子植物 双子葉植物 離弁花類	被子植物 双子葉植物 離弁花類	被子植物 双子葉植物 離弁花類	【表の修正】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>裸子植物</td> </tr> <tr> <td>被子植物</td> </tr> <tr> <td>被子植物 <u>単子葉植物</u></td> </tr> </tbody> </table>	分類	裸子植物	被子植物	被子植物 <u>単子葉植物</u>																						
分類																																
裸子植物 双子葉植物 離弁花類																																
被子植物 双子葉植物 離弁花類																																
被子植物 双子葉植物 離弁花類																																
分類																																
裸子植物																																
被子植物																																
被子植物 <u>単子葉植物</u>																																
P10. 11-13 第 10 章 11. 1 表 10. 11-8(3)	【表の修正】 (オオトリゲモ) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">指定状況</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">①</th> <th style="text-align: center;">②</th> <th style="text-align: center;">③</th> <th style="text-align: center;">④</th> <th style="text-align: center;">⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>	指定状況					①	②	③	④	⑤	-	-	-	-	-	【表の修正】 (オオトリゲモ) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">指定状況</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">①</th> <th style="text-align: center;">②</th> <th style="text-align: center;">③</th> <th style="text-align: center;">④</th> <th style="text-align: center;">⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;"><u>B</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>	指定状況					①	②	③	④	⑤	-	-	-	<u>B</u>	-
指定状況																																
①	②	③	④	⑤																												
-	-	-	-	-																												
指定状況																																
①	②	③	④	⑤																												
-	-	-	<u>B</u>	-																												
P10. 11-17 第 10 章 11. 1 表 10. 11-8(7)	【表の修正】 (ムクゲアカバナ) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">指定状況</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">①</th> <th style="text-align: center;">②</th> <th style="text-align: center;">③</th> <th style="text-align: center;">④</th> <th style="text-align: center;">⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>	指定状況					①	②	③	④	⑤	-	-	-	-	-	【表の修正】 (ムクゲアカバナ) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">指定状況</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">①</th> <th style="text-align: center;">②</th> <th style="text-align: center;">③</th> <th style="text-align: center;">④</th> <th style="text-align: center;">⑤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;"><u>B</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>	指定状況					①	②	③	④	⑤	-	-	-	<u>B</u>	-
指定状況																																
①	②	③	④	⑤																												
-	-	-	-	-																												
指定状況																																
①	②	③	④	⑤																												
-	-	-	<u>B</u>	-																												
P10. 11-20 第 10 章 11. 1 表 10. 11-8(10)	【表の修正】 ヒメチドメ	【表の修正】 <u>ミヤマチドメ</u>																														
P10. 11-23 第 10 章 11. 1 表 10. 11-11	【3 行目】 53 科 177 種の蘚苔類を確認しました。 【表の修正】 53 科 177 種	【3 行目】 58 科 177 種の蘚苔類を確認しました。 【表の修正】 <u>58 科 177 種</u>																														
P10. 11-26 第 10 章 11. 1	【3 行目】 12 科 24 種の地衣類を確認しました。	【3 行目】 <u>13 科 38 種</u> の地衣類を確認しました。																														

表 15.1-2(12) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書																				
P10. 11-26 第 10 章 11. 1 表 10. 11-13	【表の修正】 <table border="1"> <tr> <td>早春季</td> <td>8 科 14 種</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>13 科 38 種</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12 科 24 種</td> </tr> </table>	早春季	8 科 14 種	春季	13 科 38 種	合計	12 科 24 種	【表の修正】 <table border="1"> <tr> <td>早春季</td> <td><u>6</u> 科 14 種</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td><u>12</u> 科 <u>24</u> 種</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td><u>13</u> 科 <u>38</u> 種</td> </tr> </table>	早春季	<u>6</u> 科 14 種	春季	<u>12</u> 科 <u>24</u> 種	合計	<u>13</u> 科 <u>38</u> 種								
早春季	8 科 14 種																					
春季	13 科 38 種																					
合計	12 科 24 種																					
早春季	<u>6</u> 科 14 種																					
春季	<u>12</u> 科 <u>24</u> 種																					
合計	<u>13</u> 科 <u>38</u> 種																					
P10. 11-27 第 10 章 11. 1	【2 行目】 重要な地衣類は 2 科 8 種でした。	【2 行目】 重要な地衣類は 2 科 <u>7</u> 種でした。																				
P10. 11-28 第 10 章 11. 1 表 10. 11-14	【注釈の追加】 —	【注釈の追加】 ※チヂレマツゲゴケまたはウラグロ マツゲゴケ:いずれの種であるか識別 に至っていないが、いずれの種も千葉 県レッドデータブックの選定種に該 当します。																				
P10. 11-38 第 10 章 11. 1	【9 行目～11 行目】 110 種 (維管束植物 : 89 種、藻類 : 1 種、蘚苔類 : 11 種、地衣類 : 7 種、大 型菌類 (きのこ類) : 2 種) を予測対象 に選定しました。	【9 行目～11 行目】 <u>109</u> 種 (維管束植物 : 89 種、藻類 : 1 種、蘚苔類 : <u>10</u> 種、地衣類 : 7 種、大 型菌類 (きのこ類) : 2 種) を予測対象 に選定しました。																				
P10. 11-39 第 10 章 11. 1 表 10. 11-19(2)	【表の修正】 <table border="1"> <tr> <th colspan="2">分類</th> </tr> <tr> <td>裸子植物</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 双子葉植物</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 離弁花類</td> <td></td> </tr> <tr> <td>被子植物</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 双子葉植物</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 離弁花類</td> <td></td> </tr> </table>	分類		裸子植物		双子葉植物		離弁花類		被子植物		双子葉植物		離弁花類		【表の修正】 <table border="1"> <tr> <th colspan="2">分類</th> </tr> <tr> <td>裸子植物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>被子植物</td> <td></td> </tr> </table>	分類		裸子植物		被子植物	
分類																						
裸子植物																						
双子葉植物																						
離弁花類																						
被子植物																						
双子葉植物																						
離弁花類																						
分類																						
裸子植物																						
被子植物																						
P10. 11-45 第 10 章 11. 1 表 10. 11-19(8)	【表の修正】 ヒメチドメ	【表の修正】 <u>ミヤマチドメ</u>																				
P10. 11-53 第 10 章 11. 1 表 10. 11-21(4)	【表の修正】 <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">蘚苔類</td> <td>1</td> <td>ヒナゼニゴケ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ヒトデゼニゴケ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大型菌類 (きのこ類)</td> <td>1</td> <td>アミヒカリタケ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>マユハキタケ</td> </tr> </table>	蘚苔類	1	ヒナゼニゴケ	2	ヒトデゼニゴケ	大型菌類 (きのこ類)	1	アミヒカリタケ	2	マユハキタケ	【表の修正】 <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">蘚苔類</td> <td>1</td> <td><u>ヒトデゼニゴケ</u></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td><u>ヒナゼニゴケ</u></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大型菌類 (きのこ類)</td> <td>1</td> <td><u>マユハキタケ</u></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td><u>アミヒカリタケ</u></td> </tr> </table>	蘚苔類	1	<u>ヒトデゼニゴケ</u>	2	<u>ヒナゼニゴケ</u>	大型菌類 (きのこ類)	1	<u>マユハキタケ</u>	2	<u>アミヒカリタケ</u>
蘚苔類	1		ヒナゼニゴケ																			
	2	ヒトデゼニゴケ																				
大型菌類 (きのこ類)	1	アミヒカリタケ																				
	2	マユハキタケ																				
蘚苔類	1	<u>ヒトデゼニゴケ</u>																				
	2	<u>ヒナゼニゴケ</u>																				
大型菌類 (きのこ類)	1	<u>マユハキタケ</u>																				
	2	<u>アミヒカリタケ</u>																				
P10. 11-109 第 10 章 11. 1 表 10. 11- 23(56)	【表の修正】 生育環境の質的変化が生じる可能性 のある生育株数 : 1/58 (割合 : 1.7%)	【表の修正】 生育環境の質的変化が生じる可能性 のある生育株数 : <u>0</u> /58 (割合 : <u>0.0</u> %)																				
P10. 11-114 第 10 章 11. 1 表 10. 11- 23(61)	【表の修正】 生育環境の質的変化が生じる可能性 のある生育株数 : 33/255 (割合 : 12.9%)	【表の修正】 生育環境の質的変化が生じる可能性 のある生育株数 : <u>0</u> /255 (割合 : <u>0.0</u> %)																				

表 15.1-2(13) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P10.11-165 第10章11.1 表10.11-29	【表の修正】 対象種の生態等を踏まえ、適切な場所に対象種の移植又は播種を行うことにより、消失の代償が見込まれることから、本環境保全措置を採用します。	【表の修正】 対象種の生態等を踏まえ、適切な場所に対象種の <u>移植を行うこと</u> により、消失の代償が見込まれることから、本環境保全措置を採用します。
P10.11-165, 166, 167 第10章11.1 表10.11-29 表10.11-30(3)(4)	【表の修正】 水生植物、水辺の植物、付着藻類 水生生物や水辺の植物、付着藻類	【表の修正】 水生植物 <u>(維管束植物・藻類等)</u>
P10.11-165 第10章11.1 表10.11-29	【表の修正】 ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コ克蘭、イヌアワ	【表の修正】 <u>マツバラシダ</u> 、ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コ克蘭、イヌアワ
P10.11-166 第10章11.1 表10.11-30(2)	【表の修正】 河川橋梁、交差点部	【表の修正】 <u>道路照明の設置箇所</u>
P10.11-166 第10章11.1 表10.11-30(3)	【表の修正】 対象事業実施区域の水域（河川及び水路）	【表の修正】 対象事業実施区域
P10.11-167 第10章11.1 表10.11-30(5)	【表の修正】 ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コ克蘭、イヌアワ (計画路線区域及び周辺の生育環境の質的変化が及ぶ可能性のある範囲に生育する個体を対象とします。)	【表の修正】 <u>マツバラシダ</u> 、ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コ克蘭、イヌアワ
P10.12-1 第10章12.1	【3行目, 7行目】 地表式または嵩上式	【3行目, 7行目】 地表式、嵩上式、 <u>地下式</u>
P10-12.7 第10章12.1 表10.12.1-3 図10.12.1-2	【表、図の修正】 -	【表、図の修正】 ※(種名) <u>など</u>
P10.12-26 第10章12.1 表10.12.1-11(2)	【表の修正】 都市計画対象道路	【表の修正】 <u>対象事業実施区域</u>
P10.12-26 第10章12.1 表10.12.1-11(3)	【表の修正】 照明設置箇所	【表の修正】 <u>道路照明設置箇所</u>
P10.12-27 第10章12.1 表10.12.1-11(5)	【表の修正】 対象事業実施区域の水域（河川及び水路）	【表の修正】 対象事業実施区域

表 15.1-2(14) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P10.12-27 第10章12.1 表10.12.1-11 (5)(6)	【表の修正】 水生生物、水辺の生物	【表の修正】 水生動物（魚類・底生動物等）、水生植物（維管束植物・藻類等）
P10.12-27 第10章12.1 表10.12.1-11(7)	【表の修正】 トンネル坑口部、夜間に工事を行う工事施工ヤード	【表の修正】 夜間に工事を行う箇所
P10.13-2 第10章10.13.1 図10.13.1-1 図10.13.1-2	【図の修正】 —	【図の修正】 図中に市町名を記載しました。
P10.13-16 ～P10.13-40 第10章10.13.1 写真10.13.1-1 ～写真10.13.1-13	【表の修正】 —	【表の修正】 レンズ焦点距離の記載を適切に修正
P10.14-1 第10章10.14.1	【24行目～28行目】 調査地域は、計画路線から500m程度の範囲とし、主要な人と自然との触れ合いの活動の場が分布する地域としました。 調査地点は、人と自然との触れ合いの活動の場に供せられる施設又は場が存在する地点や計画路線に近接し影響が大きいと想定される地点等、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用性や快適性に及ぼす影響を把握するために適切な地点を設定しました。	【24行目～28行目】 調査地域は、対象事業実施区域から500m程度の範囲とし、主要な人と自然との触れ合いの活動の場が分布する地域としました。 調査地点は、人と自然との触れ合いの活動の場に供せられる施設または場が存在する地点や対象事業実施区域に近接し影響が大きいと想定される地点等、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用性や快適性に及ぼす影響を把握するために適切な地点を設定しました。
P10.14-3 第10章10.14.1 図10.14.1-1	【図の修正】 —	【図の修正】 凡例の順序を表10.14.1-1に合わせました。
P10.14-3 第10章10.14.1 図10.14.1-1	【図の修正】 —	【図の修正】 図中に市町名を記載しました。
P10.14-6～ P10.14-12 第10章10.14.1 表10.14.1-4(1) ～(7)	【表の修正】 実施区域との位置関係	【表の修正】 計画路線との位置関係
P10.14-8 第10章10.14.1 表10.14.1-4(3)	【表の修正】 事業実施区域から約450m東側に位置する。	【表の修正】 対象事業実施区域から約450m東側に位置している。

表 15.1-2(15) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P10.14-9 第10章 10.14.1 表 10.14.1-4(4)	【表の修正】 計画路線にコースが最も近接する箇所は、事業実施区域から約500m西側に位置する。	【表の修正】 <u>対象事業実施区域</u> から約500m西側に位置している。
P10.14-23 第10章 10.14.1	【8行目】 予測手法は、都市計画対象道路事業実施区域と主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布範囲の重ね合わせ等による方法であり、予測の不確実性は小さいと考えられます。	【8行目】 予測手法は、 <u>対象事業実施区域</u> と主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布範囲の重ね合わせ等による方法であり、予測の不確実性は小さいと考えられます。
P10.15-4 第10章 10.15 表 10.15.1-3	【表の修正】 建設発生土 ^{注)} 建設発生木材の予測値 再資源化量：約36,000m ³ 最終処分量：約1,500m ³	【表の修正】 建設発生土 建設発生木材の予測値 再資源化量：約 <u>36,500</u> m ³ 最終処分量：約 <u>1,000</u> m ³
P11-2 11章 表 11-1(1)	【調査結果】 健康福祉総合センターすこやか	【調査結果】 <u>保健福祉総合センターすこやか</u>
P11-2 11章 表 11-1(1)	【予測結果1行目～2行目】 二酸化窒素の予測値は0.0030～0.0038ppm、浮遊粒子状物質の予測値は0.0110～0.0111mg/m ³ です。	【予測結果1行目～2行目】 二酸化窒素の年平均値は0.0030～0.0038ppm、浮遊粒子状物質の <u>年平均値</u> は0.0110～0.0111mg/m ³ です。
P11-2 11章 表 11-1(1)	【評価結果<基準又は目標との整合性に係る評価>1行目】 評価結果より、二酸化窒素の日平均値の年間98%値及び浮遊粒子状物質の日平均値の年間2%除外値は全ての予測地点で基準値を下回っており、基準等との整合は図られているものと評価します。	【評価結果<基準又は目標との整合性に係る評価>1行目】 評価結果より、 <u>自動車の走行に係る</u> 二酸化窒素の日平均値の年間98%値及び浮遊粒子状物質の日平均値の年間2%除外値は全ての予測地点で基準値を下回っており、基準等との整合は図られているものと評価します。
P11-4 11章 表 11-1(3)	【予測結果●浮遊粒子状物質の予測結果の表】 注2) 環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月11日環境庁告示第38号)による環境基準である。	【予測結果●浮遊粒子状物質の予測結果の表】 注2) 環境基準は、「 <u>大気</u> の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月8日環境庁告示第25号)による環境基準である。
P11-5 11章 表 11-1(4) P11-6 表 11-1(5)	【予測結果●粉じん等の予測結果の表】 注2) 参考値は、「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」(平成25年3月国土技術政策総合研究所、独立行政法人土木研究所)による降下ばいじん量の値である。	【予測結果●粉じん等の予測結果の表】 注2) 参考値は、「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」[<u>国土技術政策総合研究所資料第714号</u>](平成25年3月、 <u>国土技術政策総合研究所</u> ・独立行政法人土木研究所)による降下ばいじん量の値である。

表 15.1-2(16) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P11-5 11章 表 11-1(4)	【環境保全措置及び事後調査 <環境保全措置> 6行目】 なお、環境保全措置の具体化にあたっては、実施主体である事業者が、事業実施段階において土地利用状況、住居等の立地条件を踏まえながら適切に検討します。	【環境保全措置及び事後調査 <環境保全措置> 6行目】 なお、「 <u>作業方法の配慮</u> 」及び「 <u>散水</u> 」の環境保全措置の具体化にあたっては、実施主体である事業者が、事業実施段階において土地利用状況、住居等の立地条件を踏まえながら適切に検討します。
P11-6 11章 表 11-1(5)	【調査結果 1行目】 <気象の状況(風向・風速の季節別データ)>	【調査結果 1行目】 削除
P11-6, 11, 12, 13, 15, 16, 17 11章 表 11-1(5) (10)(11)(12) (14)(15)(16)	【予測結果 1行目】 予測値は、	【予測結果 1行目】 予測 <u>結果</u> は、
P11-6 11章 表 11-1(5)	【環境保全措置及び事後調査 8行目】 なお、環境保全措置の具体化にあたっては、実施主体である事業者が、事業実施段階において既存一般道の交通量等を考慮し運行ルートを選定や運行の分散等を検討します。	【環境保全措置及び事後調査 8行目】 なお、「 <u>工事用車両の分散</u> 」の環境保全措置の具体化にあたっては、実施主体である事業者が、事業実施段階において既存一般道の交通量等を考慮し運行ルートを選定や運行の分散等を検討します。
P11-6 11章 表 11-1(5)	【評価結果<基準又は目標との整合性に係る評価>1行目】 評価結果より、降下ばいじん量は全ての予測地点で参考値を下回っており、基準等との整合は図られているものと評価します。	【評価結果<基準又は目標との整合性に係る評価>1行目】 評価結果より、「 <u>工事用車両の運行による降下ばいじんの予測値</u> 」は、全ての予測地点で参考値を下回っており、基準等との整合は図られているものと評価します。
P11-7, 8, 9 11章 表 11-1(6)(7) (8)	【予測結果及び評価結果●騒音の予測結果(計画路線の予測:単路部)及び●騒音の評価結果(計画路線の予測:単路部)の表】 1行目:地点 注2)環境基準は、「騒音に係る環境基準について」(平成10年9月環境庁告示第64号)による道路に面する地域の基準及び幹線交通を担う道路に近接する空間の基準である。	【予測結果及び評価結果●騒音の予測結果(計画路線の予測:単路部)及び●騒音の評価結果(計画路線の予測:単路部)の表】 1行目: <u>予測地点</u> 注2)環境基準は、「騒音に係る環境基準について」(平成10年9月 <u>30日</u> 、環境庁告示第64号)による道路に面する地域の基準及び幹線交通を担う道路に近接する空間の基準である。 番号列を削除

表 15.1-2(17) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P11-8 11章 表 11-1(7)	【評価結果●騒音の評価結果（計画路線の予測：特殊部）の表】 —	【評価結果●騒音の評価結果（計画路線の予測：特殊部）の表】 <u>予測値を修正</u>
P11-9 11章 表 11-1(8)	【調査結果●都市計画対象道路事業により供用される道路の沿道の状況の調査結果（道路交通騒音）の表の安房郡鋸南町大帷子 142-10 付近の地表面の種類】 樹林地、畑地、舗装地	【調査結果●都市計画対象道路事業により供用される道路の沿道の状況の調査結果（道路交通騒音）の表の安房郡鋸南町大帷子 142-10 付近の地表面の種類】 樹林地、畑地、 <u>草地</u> 、舗装地
P11-11 11章 表 11-1(10)	【予測結果●騒音の予測結果（騒音レベルの 90%レンジの上端値 (L_{A5})）の表】 注 3) 予測地点 3 の江月水仙ロード付近は鋼橋架設のユニットを設定しており、予測値は $L_{A, Fmax, 5}$ （変動ごとの指示値の最大値の 90%レンジの上端値）である。	【予測結果●騒音の予測結果（騒音レベルの 90%レンジの上端値 (L_{A5})）の表】 注 3) <u>江月水仙ロード付近は鋼橋架設のユニットを設定しており</u> 、予測値は $L_{A, Fmax, 5}$ （変動ごとの指示値の最大値の 90%レンジの上端値）である。
P11-11 11章 表 11-1(10)	【環境保全措置及び事後調査●環境保全措置の検討結果 作業方法の配慮他の環境への影響 1 つ目の表】 大気質・振動への影響も低減される	【環境保全措置及び事後調査●環境保全措置の検討結果の作業方法の配慮他の環境への影響 1 つ目の表】 大気質・振動・ <u>動物・生態系</u> への影響も低減される
P11-11 11章 表 11-1(10)	【環境保全措置及び事後調査●環境保全措置の検討結果 仮囲い等の遮音対策 他の環境への影響 3 つ目の表】 大気質への影響も低減される	【環境保全措置及び事後調査●環境保全措置の検討結果 仮囲い等の遮音対策 他の環境への影響 3 つ目の表】 大気質・ <u>動物・生態系</u> への影響も低減される
P11-11 11章 表 11-1(10)	【評価結果●騒音の評価結果の表】 盛土工・(切土)	【評価結果●騒音の評価結果の表】 <u>切土工・盛土工</u>
P11-13 11章 表 11-1(12)	【予測結果●振動の予測結果（振動レベルの 80%レンジの上端値 (L_{10})）の表】	【予測結果●振動の予測結果（振動レベルの 80%レンジの上端値 (L_{10})）の表】 <u>番号列を削除</u>

表 15.1-2(18) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P11-13 11章 表 11-1(12)	【予測結果●振動の予測結果（振動レベルの 80%レンジの上端値 (L_{10})）の表】 注 4) 地点 e の東京方面において、夜間の全時間帯で等価交通量が予測式の適用範囲（10～1,000 台/500 秒/車線）を下回ったため、等価交通量を予測式適用範囲下限値である 10 台として予測を行った。	【予測結果●振動の予測結果（振動レベルの 80%レンジの上端値 (L_{10})）の表】 注 4) 《富津竹岡 IC 付近》の東京方面において、夜間の全時間帯で等価交通量が予測式の適用範囲（10～1,000 台/500 秒/車線）を下回ったため、等価交通量を予測式適用範囲下限値である 10 台として予測を行った。
P11-13 11章 表 11-1(12)	【環境保全措置及び事後調査＜環境保全措置＞ 3 行目】 予測結果より、自動車の走行に係る振動に関しては「振動規制法施行規則」による道路交通振動の限度を下回り、影響が極めて小さいと考えられるため、環境保全措置は行わないものとします。	【環境保全措置及び事後調査＜環境保全措置＞ 3 行目】 予測結果より、自動車の走行に係る振動に関しては「振動規制法施行規則」による道路交通振動の限度を下回り、 <u>影響は小さい</u> と考えられるため、環境保全措置は行わないものとします。
P11-13 11章 表 11-1(12)	【評価結果●振動の評価結果（振動レベルの 80%レンジの上端値 (L_{10})）の表】 注 2) 規制基準は、「振動規制法施行規則」（昭和 51 年 11 月 10 日 総理府令第 58 号）による道路交通振動の限度である。地域指定及び用途地域の指定はない箇所は、当該地点の地域の利用状況を鑑みて、振動規制法に準じ地域の区分を第一種区域（住居専用地域、住居地域）の昼間 65dB、夜間 60dB を目標値として設定した。	【評価結果●振動の評価結果（振動レベルの 80%レンジの上端値 (L_{10})）の表】 注 2) 規制基準は、「振動規制法施行規則」（昭和 51 年 11 月 10 日 総理府令第 58 号）による道路交通振動の限度である。
P11-15 11章 表 11-1(14)	【調査結果の＜地盤の状況（地盤種別）＞の表タイトル】	【調査結果の＜地盤の状況（地盤種別）＞の表タイトル】 ●地盤の状況の調査結果（地盤種別）
P11-16 11章 表 11-1(15)	【予測結果●振動の予測結果（振動レベルの 80%レンジの上端値 (L_{10})）の表】	【予測結果●振動の予測結果（振動レベルの 80%レンジの上端値 (L_{10})）の表】 記号列を削除
P11-17 11章 表 11-1(16)	【予測結果●低周波音の予測結果の表】 注 2) 参考値は、「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）」（平成 25 年 3 月 国土技術政策総合研究所、独立行政法人土木研究所）による低周波音の参考となる指標である。	【予測結果●低周波音の予測結果の表】 注 2) 参考値は、「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）」〔国土技術総合研究所資料第 714 号〕（平成 25 年 3 月、国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）による低周波音の参考となる指標である。
P11-18 第 11 章 表 11-1(17)	【調査結果＜水質の状況＞●水質の状況の調査結果（濁度）の単位】 [単位：mg/l]	【調査結果＜水質の状況＞●水質の状況の調査結果（濁度）の単位】 [単位：度]

表 15.1-2(19) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書																																																																																																												
P11-19 第 11 章 表 11-1(18)	【調査結果<水質の状況>●水質の状況の調査結果(濁度)の単位】 [単位:mg/l]	【調査結果<水質の状況>●水質の状況の調査結果(濁度)の単位】 [単位:度]																																																																																																												
P11-20 第 11 章 表 11-1(19)	【調査結果<水底の土砂の状況>】 ●ふるい分け試験 ●粒子径解析	【調査結果<水底の土砂の状況>】 ●ふるい分け試験結果 ●粒子径解析結果																																																																																																												
P11-23 第 11 章 表 11-1(22)	【調査結果<既存資料調査>】 ●重要な地形及び地質の状況	【調査結果<既存資料調査>】 ●重要な地形及び地質等の状況																																																																																																												
P11-28 第 11 章 表 11-1(27)	<p>【環境保全措置及び事後調査】</p> <table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td>種類</td> <td>工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用</td> </tr> <tr> <td></td> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域内</td> </tr> <tr> <td>保全対象</td> <td></td> <td>動物(猛禽類含む)全般</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td></td> <td>変更区域を極力少なくすることにより、生息環境への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td></td> <td>植物・生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td>種類</td> <td>移動経路の確保(カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>位置</td> <td>都市計画対象道路</td> </tr> <tr> <td>保全対象</td> <td></td> <td>移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td></td> <td>移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td></td> <td>生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table>	実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用		位置	対象事業実施区域内	保全対象		動物(猛禽類含む)全般	環境保全措置の効果		変更区域を極力少なくすることにより、生息環境への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		植物・生態系への影響も低減される。	実施内容	種類	移動経路の確保(カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)		位置	都市計画対象道路	保全対象		移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)	環境保全措置の効果		移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		生態系への影響も低減される。	<p>【環境保全措置及び事後調査】</p> <table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td>種類</td> <td>工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用</td> </tr> <tr> <td></td> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域</td> </tr> <tr> <td>保全対象</td> <td></td> <td>動物(猛禽類含む)全般</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td></td> <td>変更区域を極力少なくすることにより、生息環境への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td></td> <td>植物・生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td>種類</td> <td>移動経路の確保(カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域</td> </tr> <tr> <td>保全対象</td> <td></td> <td>移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td></td> <td>移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td></td> <td>生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table>	実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用		位置	対象事業実施区域	保全対象		動物(猛禽類含む)全般	環境保全措置の効果		変更区域を極力少なくすることにより、生息環境への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		植物・生態系への影響も低減される。	実施内容	種類	移動経路の確保(カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)		位置	対象事業実施区域	保全対象		移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)	環境保全措置の効果		移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		生態系への影響も低減される。																																				
実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用																																																																																																												
	位置	対象事業実施区域内																																																																																																												
保全対象		動物(猛禽類含む)全般																																																																																																												
環境保全措置の効果		変更区域を極力少なくすることにより、生息環境への影響の低減が見込まれる。																																																																																																												
効果の不確実性		なし																																																																																																												
他の環境への影響		植物・生態系への影響も低減される。																																																																																																												
実施内容	種類	移動経路の確保(カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)																																																																																																												
	位置	都市計画対象道路																																																																																																												
保全対象		移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)																																																																																																												
環境保全措置の効果		移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる。																																																																																																												
効果の不確実性		なし																																																																																																												
他の環境への影響		生態系への影響も低減される。																																																																																																												
実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用																																																																																																												
	位置	対象事業実施区域																																																																																																												
保全対象		動物(猛禽類含む)全般																																																																																																												
環境保全措置の効果		変更区域を極力少なくすることにより、生息環境への影響の低減が見込まれる。																																																																																																												
効果の不確実性		なし																																																																																																												
他の環境への影響		植物・生態系への影響も低減される。																																																																																																												
実施内容	種類	移動経路の確保(カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)																																																																																																												
	位置	対象事業実施区域																																																																																																												
保全対象		移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)																																																																																																												
環境保全措置の効果		移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる。																																																																																																												
効果の不確実性		なし																																																																																																												
他の環境への影響		生態系への影響も低減される。																																																																																																												
P11-29 第 11 章 表 11-1(28)	<p>【環境保全措置及び事後調査】</p> <table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td>種類</td> <td>仮設沈砂池、濁水処理施設の設置</td> </tr> <tr> <td></td> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域の水域(河川及び水路)</td> </tr> <tr> <td>保全対象</td> <td></td> <td>水生生物、水辺の動物</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td></td> <td>濁水の流出を防止することにより、水生生物や水辺の動物の生息環境への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td></td> <td>水質・植物・生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td>種類</td> <td>河川への影響に配慮した施工</td> </tr> <tr> <td></td> <td>位置</td> <td>河川の変更及び水底の掘削を行う箇所</td> </tr> <tr> <td>保全対象</td> <td></td> <td>水生生物、水辺の動物</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td></td> <td>河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生生物や水辺の動物の生息環境への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td></td> <td>水質・植物・生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td>種類</td> <td>夜間工事照明の誘因性の低い照明の採用</td> </tr> <tr> <td></td> <td>位置</td> <td>トンネル坑口部、夜間に工事を行う工事施工ヤード</td> </tr> <tr> <td>保全対象</td> <td></td> <td>夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td></td> <td>誘因性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td></td> <td>生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table>	実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置		位置	対象事業実施区域の水域(河川及び水路)	保全対象		水生生物、水辺の動物	環境保全措置の効果		濁水の流出を防止することにより、水生生物や水辺の動物の生息環境への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		水質・植物・生態系への影響も低減される。	実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工		位置	河川の変更及び水底の掘削を行う箇所	保全対象		水生生物、水辺の動物	環境保全措置の効果		河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生生物や水辺の動物の生息環境への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		水質・植物・生態系への影響も低減される。	実施内容	種類	夜間工事照明の誘因性の低い照明の採用		位置	トンネル坑口部、夜間に工事を行う工事施工ヤード	保全対象		夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類	環境保全措置の効果		誘因性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		生態系への影響も低減される。	<p>【環境保全措置及び事後調査】</p> <table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td>種類</td> <td>仮設沈砂池、濁水処理施設の設置</td> </tr> <tr> <td></td> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域</td> </tr> <tr> <td>保全対象</td> <td></td> <td>水生生物(魚類・底生動物等)</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td></td> <td>濁水の流出を防止・低減することにより、水生生物(魚類・底生動物等)の生息環境への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td></td> <td>水質・植物・生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td>種類</td> <td>河川への影響に配慮した施工</td> </tr> <tr> <td></td> <td>位置</td> <td>河川の変更及び水底の掘削を行う箇所</td> </tr> <tr> <td>保全対象</td> <td></td> <td>水生生物(魚類・底生動物等)</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td></td> <td>河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生生物(魚類・底生動物等)の生息環境への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td></td> <td>水質・植物・生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td>種類</td> <td>夜間工事照明の誘因性の低い照明の採用</td> </tr> <tr> <td></td> <td>位置</td> <td>夜間に工事を行う箇所</td> </tr> <tr> <td>保全対象</td> <td></td> <td>夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td></td> <td>誘因性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td></td> <td>生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table>	実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置		位置	対象事業実施区域	保全対象		水生生物(魚類・底生動物等)	環境保全措置の効果		濁水の流出を防止・低減することにより、水生生物(魚類・底生動物等)の生息環境への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		水質・植物・生態系への影響も低減される。	実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工		位置	河川の変更及び水底の掘削を行う箇所	保全対象		水生生物(魚類・底生動物等)	環境保全措置の効果		河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生生物(魚類・底生動物等)の生息環境への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		水質・植物・生態系への影響も低減される。	実施内容	種類	夜間工事照明の誘因性の低い照明の採用		位置	夜間に工事を行う箇所	保全対象		夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類	環境保全措置の効果		誘因性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		生態系への影響も低減される。
実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置																																																																																																												
	位置	対象事業実施区域の水域(河川及び水路)																																																																																																												
保全対象		水生生物、水辺の動物																																																																																																												
環境保全措置の効果		濁水の流出を防止することにより、水生生物や水辺の動物の生息環境への影響の低減が見込まれる。																																																																																																												
効果の不確実性		なし																																																																																																												
他の環境への影響		水質・植物・生態系への影響も低減される。																																																																																																												
実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工																																																																																																												
	位置	河川の変更及び水底の掘削を行う箇所																																																																																																												
保全対象		水生生物、水辺の動物																																																																																																												
環境保全措置の効果		河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生生物や水辺の動物の生息環境への影響の低減が見込まれる。																																																																																																												
効果の不確実性		なし																																																																																																												
他の環境への影響		水質・植物・生態系への影響も低減される。																																																																																																												
実施内容	種類	夜間工事照明の誘因性の低い照明の採用																																																																																																												
	位置	トンネル坑口部、夜間に工事を行う工事施工ヤード																																																																																																												
保全対象		夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類																																																																																																												
環境保全措置の効果		誘因性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる。																																																																																																												
効果の不確実性		なし																																																																																																												
他の環境への影響		生態系への影響も低減される。																																																																																																												
実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置																																																																																																												
	位置	対象事業実施区域																																																																																																												
保全対象		水生生物(魚類・底生動物等)																																																																																																												
環境保全措置の効果		濁水の流出を防止・低減することにより、水生生物(魚類・底生動物等)の生息環境への影響の低減が見込まれる。																																																																																																												
効果の不確実性		なし																																																																																																												
他の環境への影響		水質・植物・生態系への影響も低減される。																																																																																																												
実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工																																																																																																												
	位置	河川の変更及び水底の掘削を行う箇所																																																																																																												
保全対象		水生生物(魚類・底生動物等)																																																																																																												
環境保全措置の効果		河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生生物(魚類・底生動物等)の生息環境への影響の低減が見込まれる。																																																																																																												
効果の不確実性		なし																																																																																																												
他の環境への影響		水質・植物・生態系への影響も低減される。																																																																																																												
実施内容	種類	夜間工事照明の誘因性の低い照明の採用																																																																																																												
	位置	夜間に工事を行う箇所																																																																																																												
保全対象		夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類																																																																																																												
環境保全措置の効果		誘因性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる。																																																																																																												
効果の不確実性		なし																																																																																																												
他の環境への影響		生態系への影響も低減される。																																																																																																												

表 15.1-2(20) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書																																																																																																						
P11-31 第11章 表11-1 (30)	<p>【調査結果 <植物相の状況> 表の修正】</p> <p>●植物相の状況の調査結果</p> <table border="1"> <tr> <td>地衣類</td> <td>12科 24種</td> </tr> </table>	地衣類	12科 24種	<p>【調査結果 <植物相の状況> 表の修正】</p> <p>●植物相の状況の調査結果</p> <table border="1"> <tr> <td>地衣類</td> <td>13科 38種</td> </tr> </table>	地衣類	13科 38種																																																																																																		
地衣類	12科 24種																																																																																																							
地衣類	13科 38種																																																																																																							
P11-31 第11章 表11-1 (30)	<p>【予測結果 1行目】</p> <p>重要な種が 110 種（維管束植物：89 種、藻類：1 種、蘚苔類：11 種、</p>	<p>【予測結果 1行目】</p> <p>重要な種が 109 種（維管束植物：89 種、藻類：1 種、蘚苔類：10 種、</p>																																																																																																						
P11-31 第11章 表11-1 (30)	<p>【予測結果 6行目】</p> <p>植物の重要種 9 種（ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コ克蘭、イヌアワ）</p>	<p>【予測結果 6行目】</p> <p>植物の重要種 10 種（マツバラシダ、ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コ克蘭、イヌアワ）</p>																																																																																																						
P11-31 第11章 表11-1 (30)	<p>【環境保全措置及び事後調査】</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>工事施工ヤード及び工事用道路の対 象事業実施区域内利用</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域内</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>植物全般</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の 効果</td> <td>変更区域を極力少なくすることによ り、生育環境への影響の低減が見込 まれる。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>動物・生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>照明の漏れ出しの抑制</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>河川橋梁、交差点部</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>植物全般</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の 効果</td> <td>植物の生活の攪乱の低減が見込まれ る。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>動物・生態系への影響も低減される。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>仮設沈砂池、濁水処理施設の設置</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域の水域（河川及び 水路）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>水生植物、水辺の植物、付着藻類</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の 効果</td> <td>濁水の流出を防止することにより、 水生植物や水辺の植物、付着藻類の 生育環境への影響の低減が見込まれ る。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>水質・動物・生態系への影響も低減 される。</td> </tr> </table>	実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対 象事業実施区域内利用	位置	対象事業実施区域内	保全対象		植物全般	環境保全措置の 効果		変更区域を極力少なくすることによ り、生育環境への影響の低減が見込 まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		動物・生態系への影響も低減される。	実施内容	種類	照明の漏れ出しの抑制	位置	河川橋梁、交差点部	保全対象		植物全般	環境保全措置の 効果		植物の生活の攪乱の低減が見込まれ る。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		動物・生態系への影響も低減される。	実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置	位置	対象事業実施区域の水域（河川及び 水路）	保全対象		水生植物、水辺の植物、付着藻類	環境保全措置の 効果		濁水の流出を防止することにより、 水生植物や水辺の植物、付着藻類の 生育環境への影響の低減が見込まれ る。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		水質・動物・生態系への影響も低減 される。	<p>【環境保全措置及び事後調査】</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>工事施工ヤード及び工事用道路の対 象事業実施区域内利用</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>植物全般</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の 効果</td> <td>変更区域を極力少なくすることによ り、生育環境への影響の低減が見込 まれる</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>動物・生態系への影響も低減される</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>照明の漏れ出しの抑制</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>道路照明の設置箇所</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>植物全般</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の 効果</td> <td>植物の生活の攪乱の低減が見込まれ る</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>動物・生態系への影響も低減される</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>仮設沈砂池、濁水処理施設の設置</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>水生植物（維管束植物・藻類等）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の 効果</td> <td>濁水の流出を防止・低減することによ り、水生植物（維管束植物・藻類 等）の生育環境への影響の低減が見 込まれる</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>水質・動物・生態系への影響も低減 される</td> </tr> </table>	実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対 象事業実施区域内利用	位置	対象事業実施区域	保全対象		植物全般	環境保全措置の 効果		変更区域を極力少なくすることによ り、生育環境への影響の低減が見込 まれる	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		動物・生態系への影響も低減される	実施内容	種類	照明の漏れ出しの抑制	位置	道路照明の設置箇所	保全対象		植物全般	環境保全措置の 効果		植物の生活の攪乱の低減が見込まれ る	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		動物・生態系への影響も低減される	実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置	位置	対象事業実施区域	保全対象		水生植物（維管束植物・藻類等）	環境保全措置の 効果		濁水の流出を防止・低減することによ り、水生植物（維管束植物・藻類 等）の生育環境への影響の低減が見 込まれる	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		水質・動物・生態系への影響も低減 される
実施内容	種類		工事施工ヤード及び工事用道路の対 象事業実施区域内利用																																																																																																					
	位置	対象事業実施区域内																																																																																																						
保全対象		植物全般																																																																																																						
環境保全措置の 効果		変更区域を極力少なくすることによ り、生育環境への影響の低減が見込 まれる。																																																																																																						
効果の不確実性		なし																																																																																																						
他の環境への影響		動物・生態系への影響も低減される。																																																																																																						
実施内容	種類	照明の漏れ出しの抑制																																																																																																						
	位置	河川橋梁、交差点部																																																																																																						
保全対象		植物全般																																																																																																						
環境保全措置の 効果		植物の生活の攪乱の低減が見込まれ る。																																																																																																						
効果の不確実性		なし																																																																																																						
他の環境への影響		動物・生態系への影響も低減される。																																																																																																						
実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置																																																																																																						
	位置	対象事業実施区域の水域（河川及び 水路）																																																																																																						
保全対象		水生植物、水辺の植物、付着藻類																																																																																																						
環境保全措置の 効果		濁水の流出を防止することにより、 水生植物や水辺の植物、付着藻類の 生育環境への影響の低減が見込まれ る。																																																																																																						
効果の不確実性		なし																																																																																																						
他の環境への影響		水質・動物・生態系への影響も低減 される。																																																																																																						
実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対 象事業実施区域内利用																																																																																																						
	位置	対象事業実施区域																																																																																																						
保全対象		植物全般																																																																																																						
環境保全措置の 効果		変更区域を極力少なくすることによ り、生育環境への影響の低減が見込 まれる																																																																																																						
効果の不確実性		なし																																																																																																						
他の環境への影響		動物・生態系への影響も低減される																																																																																																						
実施内容	種類	照明の漏れ出しの抑制																																																																																																						
	位置	道路照明の設置箇所																																																																																																						
保全対象		植物全般																																																																																																						
環境保全措置の 効果		植物の生活の攪乱の低減が見込まれ る																																																																																																						
効果の不確実性		なし																																																																																																						
他の環境への影響		動物・生態系への影響も低減される																																																																																																						
実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置																																																																																																						
	位置	対象事業実施区域																																																																																																						
保全対象		水生植物（維管束植物・藻類等）																																																																																																						
環境保全措置の 効果		濁水の流出を防止・低減することによ り、水生植物（維管束植物・藻類 等）の生育環境への影響の低減が見 込まれる																																																																																																						
効果の不確実性		なし																																																																																																						
他の環境への影響		水質・動物・生態系への影響も低減 される																																																																																																						

表 15.1-2(21) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書																																																																																						
P11-32 第 11 章 表 11-1 (31)	<p>【調査結果】</p> <p>●重要な種の調査結果 (つづき)</p> <table border="1" data-bbox="432 338 892 528"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th colspan="2">確認種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地衣類</td> <td>8種</td> <td>フトネゴケ、ハイイロウメノキゴケ属の一種、センシゴケ、ヤスダゴケ、チヂレマツゲゴケ、ウラグロマツゲゴケ、キクバゴケ属の一種、コナカワラゴケ</td> </tr> <tr> <td>大型菌類(きのこ類)</td> <td>2種</td> <td>マユハキタケ、アミヒカリタケ</td> </tr> </tbody> </table> <p>【環境保全措置及び事後調査】</p> <table border="1" data-bbox="432 595 892 909"> <thead> <tr> <th rowspan="2">実施内容</th> <th>種類</th> <td>河川への影響に配慮した施工</td> </tr> <tr> <th>位置</th> <td>河川の改変及び水底の掘削を行う箇所</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保全対象</td> <td colspan="2">水生植物、水辺の植物、付着藻類</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td colspan="2">河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生植物や水辺の植物、付着藻類の生育環境への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td colspan="2">なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td colspan="2">水質・動物・生態系への影響も低減される。</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="432 943 892 1279"> <thead> <tr> <th rowspan="2">実施内容</th> <th>種類</th> <td>重要な植物種の移植</td> </tr> <tr> <th>位置</th> <td>生育地近傍</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保全対象</td> <td colspan="2">ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コクラン、イヌアワ (計画路線区域及び周辺の生育環境の質的变化が及ぶ可能性のある範囲に生育する個体を対象とする。)</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td colspan="2">対象種の生態等を踏まえ、適切な場所に対象種の移植を行うことにより、消失の代償が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td colspan="2">生育を完全に維持・保全できるか不確実性が残る。</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td colspan="2">特になし</td> </tr> </tbody> </table>	項目	確認種		地衣類	8種	フトネゴケ、ハイイロウメノキゴケ属の一種、センシゴケ、ヤスダゴケ、チヂレマツゲゴケ、ウラグロマツゲゴケ、キクバゴケ属の一種、コナカワラゴケ	大型菌類(きのこ類)	2種	マユハキタケ、アミヒカリタケ	実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工	位置	河川の改変及び水底の掘削を行う箇所	保全対象	水生植物、水辺の植物、付着藻類		環境保全措置の効果	河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生植物や水辺の植物、付着藻類の生育環境への影響の低減が見込まれる。		効果の不確実性	なし		他の環境への影響	水質・動物・生態系への影響も低減される。		実施内容	種類	重要な植物種の移植	位置	生育地近傍	保全対象	ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コクラン、イヌアワ (計画路線区域及び周辺の生育環境の質的变化が及ぶ可能性のある範囲に生育する個体を対象とする。)		環境保全措置の効果	対象種の生態等を踏まえ、適切な場所に対象種の移植を行うことにより、消失の代償が見込まれる。		効果の不確実性	生育を完全に維持・保全できるか不確実性が残る。		他の環境への影響	特になし		<p>【調査結果】</p> <p>●重要な種の調査結果 (つづき)</p> <table border="1" data-bbox="924 338 1383 528"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th colspan="2">確認種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地衣類</td> <td>7種</td> <td>フトネゴケ、ハイイロウメノキゴケ属の一種、センシゴケ、ヤスダゴケ、チヂレマツゲゴケまたはウラグロマツゲゴケ、キクバゴケ属の一種、コナカワラゴケ</td> </tr> <tr> <td>大型菌類(きのこ類)</td> <td>2種</td> <td>マユハキタケ、アミヒカリタケ</td> </tr> </tbody> </table> <p>【環境保全措置及び事後調査】</p> <table border="1" data-bbox="924 595 1383 909"> <thead> <tr> <th rowspan="2">実施内容</th> <th>種類</th> <td>河川への影響に配慮した施工</td> </tr> <tr> <th>位置</th> <td>河川の改変及び水底の掘削を行う箇所</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保全対象</td> <td colspan="2">水生植物 (維管束植物・藻類等)</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td colspan="2">河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生植物 (維管束植物・藻類等) の生育環境への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td colspan="2">なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td colspan="2">水質・動物・生態系への影響も低減される</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="924 943 1383 1279"> <thead> <tr> <th rowspan="2">実施内容</th> <th>種類</th> <td>重要な植物種の移植</td> </tr> <tr> <th>位置</th> <td>生育地近傍</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保全対象</td> <td colspan="2">マツバラン、ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コクラン、イヌアワ</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td colspan="2">対象種の生態等を踏まえ、適切な場所に対象種の移植を行うことにより、消失の代償が見込まれる</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td colspan="2">生育を完全に維持・保全できるか不確実性が残る</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td colspan="2">特になし</td> </tr> </tbody> </table>	項目	確認種		地衣類	7種	フトネゴケ、ハイイロウメノキゴケ属の一種、センシゴケ、ヤスダゴケ、チヂレマツゲゴケまたはウラグロマツゲゴケ、キクバゴケ属の一種、コナカワラゴケ	大型菌類(きのこ類)	2種	マユハキタケ、アミヒカリタケ	実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工	位置	河川の改変及び水底の掘削を行う箇所	保全対象	水生植物 (維管束植物・藻類等)		環境保全措置の効果	河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生植物 (維管束植物・藻類等) の生育環境への影響の低減が見込まれる。		効果の不確実性	なし		他の環境への影響	水質・動物・生態系への影響も低減される		実施内容	種類	重要な植物種の移植	位置	生育地近傍	保全対象	マツバラン、ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コクラン、イヌアワ		環境保全措置の効果	対象種の生態等を踏まえ、適切な場所に対象種の移植を行うことにより、消失の代償が見込まれる		効果の不確実性	生育を完全に維持・保全できるか不確実性が残る		他の環境への影響	特になし	
項目	確認種																																																																																							
地衣類	8種	フトネゴケ、ハイイロウメノキゴケ属の一種、センシゴケ、ヤスダゴケ、チヂレマツゲゴケ、ウラグロマツゲゴケ、キクバゴケ属の一種、コナカワラゴケ																																																																																						
大型菌類(きのこ類)	2種	マユハキタケ、アミヒカリタケ																																																																																						
実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工																																																																																						
	位置	河川の改変及び水底の掘削を行う箇所																																																																																						
保全対象	水生植物、水辺の植物、付着藻類																																																																																							
環境保全措置の効果	河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生植物や水辺の植物、付着藻類の生育環境への影響の低減が見込まれる。																																																																																							
効果の不確実性	なし																																																																																							
他の環境への影響	水質・動物・生態系への影響も低減される。																																																																																							
実施内容	種類	重要な植物種の移植																																																																																						
	位置	生育地近傍																																																																																						
保全対象	ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コクラン、イヌアワ (計画路線区域及び周辺の生育環境の質的变化が及ぶ可能性のある範囲に生育する個体を対象とする。)																																																																																							
環境保全措置の効果	対象種の生態等を踏まえ、適切な場所に対象種の移植を行うことにより、消失の代償が見込まれる。																																																																																							
効果の不確実性	生育を完全に維持・保全できるか不確実性が残る。																																																																																							
他の環境への影響	特になし																																																																																							
項目	確認種																																																																																							
地衣類	7種	フトネゴケ、ハイイロウメノキゴケ属の一種、センシゴケ、ヤスダゴケ、チヂレマツゲゴケまたはウラグロマツゲゴケ、キクバゴケ属の一種、コナカワラゴケ																																																																																						
大型菌類(きのこ類)	2種	マユハキタケ、アミヒカリタケ																																																																																						
実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工																																																																																						
	位置	河川の改変及び水底の掘削を行う箇所																																																																																						
保全対象	水生植物 (維管束植物・藻類等)																																																																																							
環境保全措置の効果	河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生植物 (維管束植物・藻類等) の生育環境への影響の低減が見込まれる。																																																																																							
効果の不確実性	なし																																																																																							
他の環境への影響	水質・動物・生態系への影響も低減される																																																																																							
実施内容	種類	重要な植物種の移植																																																																																						
	位置	生育地近傍																																																																																						
保全対象	マツバラン、ウチワゴケ、シロヤマシダ、ノコギリシダ、ギンラン、キンラン、ツチアケビ、クロムヨウラン、コクラン、イヌアワ																																																																																							
環境保全措置の効果	対象種の生態等を踏まえ、適切な場所に対象種の移植を行うことにより、消失の代償が見込まれる																																																																																							
効果の不確実性	生育を完全に維持・保全できるか不確実性が残る																																																																																							
他の環境への影響	特になし																																																																																							

表 15.1-2 (22) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書																																		
P11-33 第 11 章 表 11-1 (32)	【環境保全措置及び事後調査】 <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域内</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>動物（猛禽類含む）・植物全般</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の効果</td> <td>改変区域を極力少なくすることにより、生息・生育環境への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>動物・植物への影響も低減される。</td> </tr> </table>	実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用	位置	対象事業実施区域内	保全対象		動物（猛禽類含む）・植物全般	環境保全措置の効果		改変区域を極力少なくすることにより、生息・生育環境への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		動物・植物への影響も低減される。	【環境保全措置及び事後調査】 <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>動物（猛禽類含む）・植物全般</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の効果</td> <td>改変区域を極力少なくすることにより、生息・生育環境への影響の低減が見込まれる</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>動物・植物への影響も低減される</td> </tr> </table>	実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用	位置	対象事業実施区域	保全対象		動物（猛禽類含む）・植物全般	環境保全措置の効果		改変区域を極力少なくすることにより、生息・生育環境への影響の低減が見込まれる	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		動物・植物への影響も低減される
	実施内容		種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用																																
		位置	対象事業実施区域内																																	
	保全対象		動物（猛禽類含む）・植物全般																																	
	環境保全措置の効果		改変区域を極力少なくすることにより、生息・生育環境への影響の低減が見込まれる。																																	
	効果の不確実性		なし																																	
	他の環境への影響		動物・植物への影響も低減される。																																	
	実施内容	種類	工事施工ヤード及び工事用道路の対象事業実施区域内利用																																	
		位置	対象事業実施区域																																	
保全対象		動物（猛禽類含む）・植物全般																																		
環境保全措置の効果		改変区域を極力少なくすることにより、生息・生育環境への影響の低減が見込まれる																																		
効果の不確実性		なし																																		
他の環境への影響		動物・植物への影響も低減される																																		
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>移動経路の確保 (カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>都市計画対象道路</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の効果</td> <td>移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>動物への影響も低減される。</td> </tr> </table>	実施内容	種類	移動経路の確保 (カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)	位置	都市計画対象道路	保全対象		移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)	環境保全措置の効果		移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		動物への影響も低減される。	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>移動経路の確保 (カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>対象事業実施区域</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の効果</td> <td>移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>動物への影響も低減される</td> </tr> </table>	実施内容	種類	移動経路の確保 (カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)	位置	対象事業実施区域	保全対象		移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)	環境保全措置の効果		移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		動物への影響も低減される	
実施内容		種類	移動経路の確保 (カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)																																	
	位置	都市計画対象道路																																		
保全対象		移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)																																		
環境保全措置の効果		移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる。																																		
効果の不確実性		なし																																		
他の環境への影響		動物への影響も低減される。																																		
実施内容	種類	移動経路の確保 (カルバートや誘導柵、歩行空間を併設した埋設水路等を設置)																																		
	位置	対象事業実施区域																																		
保全対象		移動能力の大きい動物(哺乳類・両生類・爬虫類・魚類)																																		
環境保全措置の効果		移動経路の機能を確保することにより、移動能力の大きい動物に対して生息への影響の低減が見込まれる																																		
効果の不確実性		なし																																		
他の環境への影響		動物への影響も低減される																																		
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>照明の漏れ出しの抑制</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>照明設置箇所</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>夜行性動物、走光性動物、猛禽類、植物全般</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の効果</td> <td>夜行性の動物の生活、光に誘引される習性をもつ動物の生活、猛禽類の繁殖環境、植物の生活の攪乱の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>動物・植物への影響も低減される。</td> </tr> </table>	実施内容	種類	照明の漏れ出しの抑制	位置	照明設置箇所	保全対象		夜行性動物、走光性動物、猛禽類、植物全般	環境保全措置の効果		夜行性の動物の生活、光に誘引される習性をもつ動物の生活、猛禽類の繁殖環境、植物の生活の攪乱の低減が見込まれる。	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		動物・植物への影響も低減される。	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">実施内容</td> <td>種類</td> <td>照明の漏れ出しの抑制</td> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>道路照明の設置箇所</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保全対象</td> <td>夜行性動物、走光性動物、猛禽類、植物全般</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全措置の効果</td> <td>夜行性の動物の生活、光に誘引される習性をもつ動物の生活、猛禽類の繁殖環境、植物の生活の攪乱の低減が見込まれる</td> </tr> <tr> <td colspan="2">効果の不確実性</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">他の環境への影響</td> <td>動物・植物への影響も低減される</td> </tr> </table>	実施内容	種類	照明の漏れ出しの抑制	位置	道路照明の設置箇所	保全対象		夜行性動物、走光性動物、猛禽類、植物全般	環境保全措置の効果		夜行性の動物の生活、光に誘引される習性をもつ動物の生活、猛禽類の繁殖環境、植物の生活の攪乱の低減が見込まれる	効果の不確実性		なし	他の環境への影響		動物・植物への影響も低減される	
実施内容		種類	照明の漏れ出しの抑制																																	
	位置	照明設置箇所																																		
保全対象		夜行性動物、走光性動物、猛禽類、植物全般																																		
環境保全措置の効果		夜行性の動物の生活、光に誘引される習性をもつ動物の生活、猛禽類の繁殖環境、植物の生活の攪乱の低減が見込まれる。																																		
効果の不確実性		なし																																		
他の環境への影響		動物・植物への影響も低減される。																																		
実施内容	種類	照明の漏れ出しの抑制																																		
	位置	道路照明の設置箇所																																		
保全対象		夜行性動物、走光性動物、猛禽類、植物全般																																		
環境保全措置の効果		夜行性の動物の生活、光に誘引される習性をもつ動物の生活、猛禽類の繁殖環境、植物の生活の攪乱の低減が見込まれる																																		
効果の不確実性		なし																																		
他の環境への影響		動物・植物への影響も低減される																																		

表 15.1-2(23) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書																																																																																																																		
P11-34 第 11 章 表 11-1 (33)	<p>【調査結果】 ○山地・丘陵地、台地の樹林環境</p> <table border="1" data-bbox="432 338 890 465"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>注目種・群集</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上位性</td> <td>オオタカ、フクロウ</td> </tr> <tr> <td>典型性</td> <td>シイ・カシ二次林、ニホンザル、ホンドアカネズミ、キビタキ、ヤマガラ、アズマヒキガエル、クチキコオロギ</td> </tr> </tbody> </table> <p>【環境保全措置及び事後調査】</p> <table border="1" data-bbox="432 539 890 779"> <thead> <tr> <th rowspan="2">実施内容</th> <th>種類</th> <td>仮設沈砂池、濁水処理施設の設置</td> </tr> <tr> <th>位置</th> <td>対象事業実施区域の水域（河川及び水路）</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保全対象</td> <td colspan="2">水生生物、水辺の生物</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td colspan="2">濁水の流出を防止することにより、水生生物や水辺の生物の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td colspan="2">なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td colspan="2">水質・動物・植物への影響も低減される。</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="432 853 890 1160"> <thead> <tr> <th rowspan="2">実施内容</th> <th>種類</th> <td>河川への影響に配慮した施工</td> </tr> <tr> <th>位置</th> <td>河川の改変及び水底の掘削を行う箇所</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保全対象</td> <td colspan="2">水生生物、水辺の生物</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td colspan="2">河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生生物や水辺の生物の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td colspan="2">なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td colspan="2">水質・動物・植物への影響も低減される。</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="432 1272 890 1532"> <thead> <tr> <th rowspan="2">実施内容</th> <th>種類</th> <td>夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用</td> </tr> <tr> <th>位置</th> <td>トンネル坑口部、夜間に工事を行う工事施工ヤード</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保全対象</td> <td colspan="2">夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td colspan="2">誘引性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる。</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td colspan="2">なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td colspan="2">動物への影響も低減される。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	注目種・群集	上位性	オオタカ、フクロウ	典型性	シイ・カシ二次林、ニホンザル、ホンドアカネズミ、キビタキ、ヤマガラ、アズマヒキガエル、クチキコオロギ	実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置	位置	対象事業実施区域の水域（河川及び水路）	保全対象	水生生物、水辺の生物		環境保全措置の効果	濁水の流出を防止することにより、水生生物や水辺の生物の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる。		効果の不確実性	なし		他の環境への影響	水質・動物・植物への影響も低減される。		実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工	位置	河川の改変及び水底の掘削を行う箇所	保全対象	水生生物、水辺の生物		環境保全措置の効果	河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生生物や水辺の生物の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる。		効果の不確実性	なし		他の環境への影響	水質・動物・植物への影響も低減される。		実施内容	種類	夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用	位置	トンネル坑口部、夜間に工事を行う工事施工ヤード	保全対象	夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類		環境保全措置の効果	誘引性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる。		効果の不確実性	なし		他の環境への影響	動物への影響も低減される。		<p>【表の修正】 ○山地・丘陵地、台地の樹林環境</p> <table border="1" data-bbox="922 338 1380 465"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>注目種・群集</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上位性</td> <td>オオタカ、フクロウ</td> </tr> <tr> <td>典型性</td> <td>シイ・カシ二次林、ニホンザル、アカネズミ、キビタキ、ヤマガラ、アズマヒキガエル、クチキコオロギ</td> </tr> </tbody> </table> <p>【環境保全措置及び事後調査】</p> <table border="1" data-bbox="922 539 1380 824"> <thead> <tr> <th rowspan="2">実施内容</th> <th>種類</th> <td>仮設沈砂池、濁水処理施設の設置</td> </tr> <tr> <th>位置</th> <td>対象事業実施区域</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保全対象</td> <td colspan="2">水生動物（魚類・底生動物等）、水生植物（維管束植物・藻類等）</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td colspan="2">濁水の流出を防止することにより、水生動物（魚類・底生動物等）や水生植物（維管束植物・藻類等）の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td colspan="2">なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td colspan="2">水質・動物・植物への影響も低減される</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="922 853 1380 1227"> <thead> <tr> <th rowspan="2">実施内容</th> <th>種類</th> <td>河川への影響に配慮した施工</td> </tr> <tr> <th>位置</th> <td>河川の改変及び水底の掘削を行う箇所</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保全対象</td> <td colspan="2">水生動物（魚類・底生動物等）、水生植物（維管束植物・藻類等）</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td colspan="2">河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生動物（魚類・底生動物等）や水生植物（維管束植物・藻類等）の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td colspan="2">なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td colspan="2">水質・動物・植物への影響も低減される</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="922 1272 1380 1509"> <thead> <tr> <th rowspan="2">実施内容</th> <th>種類</th> <td>夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用</td> </tr> <tr> <th>位置</th> <td>夜間に工事を行う箇所</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保全対象</td> <td colspan="2">夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td colspan="2">誘引性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる</td> </tr> <tr> <td>効果の不確実性</td> <td colspan="2">なし</td> </tr> <tr> <td>他の環境への影響</td> <td colspan="2">動物への影響も低減される</td> </tr> </tbody> </table>	項目	注目種・群集	上位性	オオタカ、フクロウ	典型性	シイ・カシ二次林、ニホンザル、アカネズミ、キビタキ、ヤマガラ、アズマヒキガエル、クチキコオロギ	実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置	位置	対象事業実施区域	保全対象	水生動物（魚類・底生動物等）、水生植物（維管束植物・藻類等）		環境保全措置の効果	濁水の流出を防止することにより、水生動物（魚類・底生動物等）や水生植物（維管束植物・藻類等）の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる		効果の不確実性	なし		他の環境への影響	水質・動物・植物への影響も低減される		実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工	位置	河川の改変及び水底の掘削を行う箇所	保全対象	水生動物（魚類・底生動物等）、水生植物（維管束植物・藻類等）		環境保全措置の効果	河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生動物（魚類・底生動物等）や水生植物（維管束植物・藻類等）の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる		効果の不確実性	なし		他の環境への影響	水質・動物・植物への影響も低減される		実施内容	種類	夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用	位置	夜間に工事を行う箇所	保全対象	夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類		環境保全措置の効果	誘引性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる		効果の不確実性	なし		他の環境への影響	動物への影響も低減される	
項目	注目種・群集																																																																																																																			
上位性	オオタカ、フクロウ																																																																																																																			
典型性	シイ・カシ二次林、ニホンザル、ホンドアカネズミ、キビタキ、ヤマガラ、アズマヒキガエル、クチキコオロギ																																																																																																																			
実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置																																																																																																																		
	位置	対象事業実施区域の水域（河川及び水路）																																																																																																																		
保全対象	水生生物、水辺の生物																																																																																																																			
環境保全措置の効果	濁水の流出を防止することにより、水生生物や水辺の生物の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる。																																																																																																																			
効果の不確実性	なし																																																																																																																			
他の環境への影響	水質・動物・植物への影響も低減される。																																																																																																																			
実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工																																																																																																																		
	位置	河川の改変及び水底の掘削を行う箇所																																																																																																																		
保全対象	水生生物、水辺の生物																																																																																																																			
環境保全措置の効果	河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生生物や水辺の生物の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる。																																																																																																																			
効果の不確実性	なし																																																																																																																			
他の環境への影響	水質・動物・植物への影響も低減される。																																																																																																																			
実施内容	種類	夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用																																																																																																																		
	位置	トンネル坑口部、夜間に工事を行う工事施工ヤード																																																																																																																		
保全対象	夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類																																																																																																																			
環境保全措置の効果	誘引性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる。																																																																																																																			
効果の不確実性	なし																																																																																																																			
他の環境への影響	動物への影響も低減される。																																																																																																																			
項目	注目種・群集																																																																																																																			
上位性	オオタカ、フクロウ																																																																																																																			
典型性	シイ・カシ二次林、ニホンザル、アカネズミ、キビタキ、ヤマガラ、アズマヒキガエル、クチキコオロギ																																																																																																																			
実施内容	種類	仮設沈砂池、濁水処理施設の設置																																																																																																																		
	位置	対象事業実施区域																																																																																																																		
保全対象	水生動物（魚類・底生動物等）、水生植物（維管束植物・藻類等）																																																																																																																			
環境保全措置の効果	濁水の流出を防止することにより、水生動物（魚類・底生動物等）や水生植物（維管束植物・藻類等）の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる																																																																																																																			
効果の不確実性	なし																																																																																																																			
他の環境への影響	水質・動物・植物への影響も低減される																																																																																																																			
実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工																																																																																																																		
	位置	河川の改変及び水底の掘削を行う箇所																																																																																																																		
保全対象	水生動物（魚類・底生動物等）、水生植物（維管束植物・藻類等）																																																																																																																			
環境保全措置の効果	河川内における仮設工事等において、止水性の高い仮締切工の採用や、矢板や杭の打設や引き抜き等の際の水の濁りの防止に努めることで、水生動物（魚類・底生動物等）や水生植物（維管束植物・藻類等）の生息・生育環境への影響の低減が見込まれる																																																																																																																			
効果の不確実性	なし																																																																																																																			
他の環境への影響	水質・動物・植物への影響も低減される																																																																																																																			
実施内容	種類	夜間工事照明の誘引性の低い照明の採用																																																																																																																		
	位置	夜間に工事を行う箇所																																																																																																																		
保全対象	夜行性動物、走光性昆虫類、猛禽類																																																																																																																			
環境保全措置の効果	誘引性の低い照明の採用により、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類及び猛禽類の繁殖活動への影響の低減が見込まれる																																																																																																																			
効果の不確実性	なし																																																																																																																			
他の環境への影響	動物への影響も低減される																																																																																																																			
P11-37 11 章 表 11-1(36)	<p>【調査結果】 <主要な人と自然との触れ合いの活動の場の概況> 2 行目 計画路線より 500m 程度の範囲に存在する主要な人と自然との触れ合いの活動の場は 7 箇所存在します。</p>	<p>【調査結果】 <主要な人と自然との触れ合いの活動の場の概況> 2 行目 対象事業実施区域より 500m 程度の範囲に存在する主要な人と自然との触れ合いの活動の場は 7 箇所存在します</p>																																																																																																																		
P11-37 11 章 表 11-1(36)	<p>【調査結果】 <主要な人と自然との触れ合いの活動の場の概況> ●主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果 鋸山 0m</p>	<p>【調査結果】 <主要な人と自然との触れ合いの活動の場の概況> ●主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果 鋸山 0m(トンネル構造で通過)</p>																																																																																																																		

表 15.1-2(24) その他、準備書からの主な修正内容

評価書の頁	準備書	補正前の評価書
P11-37 11章 表 11-1(36)	【環境保全措置及び事後調査】 <事後調査> 1行目 予測手法は、都市計画対象道路事業実施区域と主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布範囲の重ね合わせ等による方法であり、予測の不確実性は小さいと考えられます。	【環境保全措置及び事後調査】 <事後調査> 1行目 予測手法は、 <u>対象事業実施区域</u> と主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布範囲の重ね合わせ等による方法であり、予測の不確実性は小さいと考えられます。
P11-38 11章 表 11-1(37)	【予測結果の表の修正】 建設発生土 建設発生木材の予測値 再資源化量：約 36,000m ³ 最終処分量：約 1,500m ³	【予測結果の表の修正】 建設発生土 建設発生木材の予測値 再資源化量：約 <u>36,500</u> m ³ 最終処分量：約 <u>1,000</u> m ³
資料編 P2-38, 39 図 2.3-1(1)～ (8)	【図の修正】 —	【図の修正】 図中に「東京方面」、「館山方面」を追記
資料編 P3-20, 22, 24 表 3.2-1 図 3.2-1(2) 図 3.2-1(4)	【図・表の修正】 盛土工（切土）	【図・表の修正】 <u>切土工・盛土工</u>
資料編 P2-41～ 48 図 2.3-2(1)～ (4) 図 2.3-3(1)～ (4)	【図の修正】 —	【図の修正】 「注）既存一般道の影響を加味した <u>図であるため、計画道路における予測断面とは異なる位置に最高濃度が出現している。</u> 」を追記
資料編 P4-5, 7, 9 表 4.2-1 図 4.2-1(2) 図 4.2-1(4)	【図・表の修正】 盛土工（切土）	【図・表の修正】 <u>切土工・盛土工</u>
資料編 P6-32～ 35 第6章 6.2	【項目追加】 —	【項目追加】 <u>マニュアルにおける予測手法の説明</u>

15.2 補正前の評価書から評価書への修正

環境影響評価法第二十三条に基づく環境大臣の意見を勘案して述べられた同法第二十四条に基づく環境保全の見地からの国土交通大臣意見及び都市計画同意権者意見を勘案して補正前の環境影響評価書の記載事項について検討を加え、補正後の評価書において行った修正等を表 15.2-1 及び表 15.2-2 に示します。なお、表現の適正化及び誤字、脱字等の訂正については適宜行いました。

表 15.2-1(1) 国土交通大臣意見及び都市計画同意権者意見を踏まえた
補正前の評価書の記載事項の修正内容

評価書の頁	補正前の評価書	評価書
P3-22 第3章3.3 3.3.3(3)	<p>【7行目～8行目】</p> <p>トンネル工事に伴い発生する建設発生土等を仮置きする場所については、関係法令を遵守して適切に対応するとともに、工事着手前に関係機関や周辺住民への情報提供を行います。</p>	<p>【7行目～11行目】</p> <p>建設発生土等の仮置場については、関係法令を遵守して適切に対応するとともに、<u>周辺の生活環境及び自然環境への影響が懸念される区域を回避して設置場所を選定し、工事着手前に関係機関や周辺住民への情報提供を行います。</u>併せて、<u>仮置場までの適切な運搬及び仮置場における適切な管理を図り、建設発生土等の飛散、流出等による周辺環境への影響を回避又は極力低減します。</u></p>
P3-23 第3章3.3 3.3.3(7)	<p>【5行目～6行目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業実施に当たっては、省エネ設備の導入等により、供用後における温室効果ガス排出量の低減に努めます。 	<p>【5行目～14行目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業実施に当たっては、<u>省エネ性能の高い機器の活用等による工事中の温室効果ガスの排出削減対策、道路照明のLED化等の省エネ設備の導入、道路管理に必要な電力について再エネの導入等を進めるとともに、本事業の供用前後における温室効果ガス排出量の変化の把握を検討する等、温室効果ガスの排出削減に向けた取組に努めます。</u> 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた、<u>地球温暖化対策計画や「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」(令和3年10月閣議決定)等の見直しの状況を踏まえつつ、道路交通政策全体の検討状況を注視し、必要に応じて本事業の計画に反映します。</u> 地球温暖化対策の推進に関する法律(平成10年法律第117号)に基づき、<u>当該都市計画の目的の達成との調和を図りつつ、地球温暖化対策に係る関係地方公共団体の地方公共団体実行計画と連携して温室効果ガスの排出削減対策等が行われるよう配慮します。</u>

表 15. 2-1 (2) 国土交通大臣意見及び都市計画同意権者意見を踏まえた
補正前の評価書の記載事項の修正内容

評価書の頁	補正前の評価書	評価書
P3-24 第3章 3.3 3.3.3(10)	【1行目～2行目】 —	【1行目～2行目】 <u>工事の実施に当たっては、工事説明会等の場を活用し、本事業の実施に伴う環境影響及び環境保全措置の内容について、地域住民等に対し丁寧に説明を行います。</u>
P11-1 第11章	【14行目～15行目】 なお、本環境影響評価の段階において予測し得なかった著しい環境への影響が生じた場合には、必要に応じて専門家等の指導・助言を得ながら、適切な措置を講じます。	【14行目～18行目】 なお、本環境影響評価の段階において予測し得なかった著しい環境への影響が生じた場合や、 <u>工事用車両の運行による大気質や建設機械の稼働による騒音への影響が十分に低減できていないと判断された場合には、必要に応じて専門家等の指導・助言を得ながら、適切な措置を講じます。</u> <u>また、環境保全措置の具体化におきましては、専門家等の意見や検討に当たっての主要な論点、対応方針等を適切に公表するなど、透明性及び客観性を確保します。</u>
P11-1 第11章	【16行目～21行目】 —	【19行目～24行目】 <u>事業実施までに交通や周辺市街地の状況等が変化する可能性があることから、社会環境、生活環境及び自然環境の状況について、現段階で予測し得なかった変化が見込まれる場合には、その変化を考慮し、生活環境及び自然環境への影響について、調査、予測及び評価の項目を再検討し、その結果を踏まえ調査、予測及び評価を再実施します。</u> <u>また、その時点における環境政策に応じて必要な環境保全措置を検討し、その内容を公表します。</u>

表 15.2-2(1) その他、補正前の評価書からの主な修正内容

評価書の頁	補正前の評価書	評価書																																				
P3-20 第3章3.2 3.2.6 表3.2-7	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区間</th> <th>建設発生土</th> <th>建設汚泥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>富津竹岡 IC～富津金谷 IC</td> <td>415,600</td> <td>10,400</td> </tr> <tr> <td>富津金谷 IC～鋸南保田 IC</td> <td>375,000</td> <td>17,800</td> </tr> <tr> <td>鋸南保田 IC～鋸南富山 IC</td> <td>387,400</td> <td>12,900</td> </tr> <tr> <td>鋸南富山 IC～富浦 IC</td> <td>686,500</td> <td>21,700</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,864,500</td> <td>62,800</td> </tr> </tbody> </table>	区間	建設発生土	建設汚泥	富津竹岡 IC～富津金谷 IC	415,600	10,400	富津金谷 IC～鋸南保田 IC	375,000	17,800	鋸南保田 IC～鋸南富山 IC	387,400	12,900	鋸南富山 IC～富浦 IC	686,500	21,700	合 計	1,864,500	62,800	<p>【表の修正】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区間</th> <th>建設発生土</th> <th>建設汚泥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>富津竹岡 IC～富津金谷 IC</td> <td>415,600</td> <td>10,300</td> </tr> <tr> <td>富津金谷 IC～鋸南保田 IC</td> <td>375,000</td> <td>17,800</td> </tr> <tr> <td>鋸南保田 IC～鋸南富山 IC</td> <td>387,400</td> <td>12,800</td> </tr> <tr> <td>鋸南富山 IC～富浦 IC</td> <td>686,500</td> <td>21,700</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,864,500</td> <td>62,600</td> </tr> </tbody> </table>	区間	建設発生土	建設汚泥	富津竹岡 IC～富津金谷 IC	415,600	10,300	富津金谷 IC～鋸南保田 IC	375,000	17,800	鋸南保田 IC～鋸南富山 IC	387,400	12,800	鋸南富山 IC～富浦 IC	686,500	21,700	合 計	1,864,500	62,600
区間	建設発生土	建設汚泥																																				
富津竹岡 IC～富津金谷 IC	415,600	10,400																																				
富津金谷 IC～鋸南保田 IC	375,000	17,800																																				
鋸南保田 IC～鋸南富山 IC	387,400	12,900																																				
鋸南富山 IC～富浦 IC	686,500	21,700																																				
合 計	1,864,500	62,800																																				
区間	建設発生土	建設汚泥																																				
富津竹岡 IC～富津金谷 IC	415,600	10,300																																				
富津金谷 IC～鋸南保田 IC	375,000	17,800																																				
鋸南保田 IC～鋸南富山 IC	387,400	12,800																																				
鋸南富山 IC～富浦 IC	686,500	21,700																																				
合 計	1,864,500	62,600																																				
P3-23 第3章3.3 3.3.3(8)	<p>【1行目～5行目】</p> <p>—</p>	<p>【1行目～5行目】</p> <p>(8) <u>地すべり等への配慮</u></p> <p><u>対象事業実施区域の周辺には、土砂災害警戒区域等の土砂災害発生のおそれがある区域が存在し、また、蛇紋岩等の地すべりの起こりうる岩石の分布も確認されています。このため、工事の実施により地盤の安定性に影響を及ぼすことがないように、設計段階、工事段階において暫定2車線区間の施工及び供用時に得られた環境保全に関する知見はもとより、専門家等の助言を踏まえ、必要な対策を講じます。</u></p>																																				
P3-23 第3章3.3 3.3.3(9)	<p>【1行目～4行目】</p> <p>—</p>	<p>【1行目～4行目】</p> <p>(9) <u>保安林への配慮</u></p> <p><u>対象事業実施区域周辺には、「森林法」に基づき、水源のかん養、災害の防備、生活環境の保全の場の提供等の公共目的を達成するために指定された「保安林」が存在しています。保安林への配慮方針として、関係機関と可能な限り早期に協議を行い、保安林への影響を極力低減します。</u></p>																																				
P4.1-2 第4章4.1 4.1.1 図4.1-1	<p>【図の修正】</p> <p>鋸南気象観測所</p>	<p>【図の修正】</p> <p>鋸南<u>地域</u>気象観測所</p>																																				
P4.1-17 第4章4.1 4.1.2	<p>【3行目】</p> <p>4地点</p>	<p>【3行目】</p> <p><u>6</u>地点</p>																																				
P4.1-78, 81 第4章4.1 4.1.5 表4.1-33 図4.1-18	<p>【表・図の修正】</p> <p>—</p>	<p>【表・図の修正】</p> <p><u>表4.1-33に巨樹・巨木の情報を追記、</u> <u>図4.1-18に対応する番号を追記</u></p>																																				

表 15.2-2(2) その他、補正前の評価書からの主な修正内容

評価書の頁	補正前の評価書	評価書																																				
P4.2-10 第4章4.2 4.2.3 表4.2-7	【表の修正】 稼働井戸 本数(本) 37	【表の修正】 稼働井戸 本数(本) 36																																				
P4.2-14 第4章4.2 4.2.4	【図の修正】 交通量調査地点	【図の修正】 交通量観測地点																																				
P4.2-42 第4章4.2 4.2.7	【28行目】 対象事業実施区域及びその周囲においては、南房総国定公園及び県立富山自然公園が存在しています。	【28行目】 対象事業実施区域及びその周囲においては、図4.2-11に示すとおり、南房総国定公園及び県立富山自然公園が存在しています。																																				
P8-4 第8章8.2 表8.2-1(3)	【都市計画決定権者の見解 景観 1行目】 準備書では、10.13-6頁に示すとおり	【都市計画決定権者の見解 景観 1行目】 準備書では、10.13-3頁に示すとおり																																				
P10.5-14 第10章10.5 10.5.1	【28~30行目】 -	【28~30行目】 また、コンクリート養生水について、必要に応じて中和処理などの対策を検討しながら、適切にpH調整を行って、水質環境への影響の低減にできる限り努めます。																																				
P10.10-14 第10章10.10.1 表10.10-8	【表の修正】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査時期</th> <th>確認種数</th> <th>主な確認種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初夏季</td> <td>16目35科68種</td> <td>コジュケイ、ヤマドリ、キジ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ など</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>15目33科66種</td> <td>コジュケイ、ヤマドリ、キジ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、オオバン、ホトトギス、アマツバメ、ヒメアマツバメ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、コシアカツバメ など</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>16目35科68種</td> <td>コジュケイ、キジ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス など</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>15目34科72種</td> <td>コジュケイ、キジ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、イカルチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス など</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>16目37科79種</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	調査時期	確認種数	主な確認種	初夏季	16目35科68種	コジュケイ、ヤマドリ、キジ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ など	秋季	15目33科66種	コジュケイ、ヤマドリ、キジ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、オオバン、ホトトギス、アマツバメ、ヒメアマツバメ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、コシアカツバメ など	春季	16目35科68種	コジュケイ、キジ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス など	冬季	15目34科72種	コジュケイ、キジ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、イカルチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス など	合計	16目37科79種	-	【表の修正】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査時期</th> <th>確認種数</th> <th>主な確認種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初夏季</td> <td>14目29科46種</td> <td>コジュケイ、ヤマドリ、キジ、カルガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、トビ、サシバ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ など</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>12目28科45種</td> <td>コジュケイ、ヤマドリ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、アオサギ、ダイサギ、アマツバメ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、オオタカ、サシバ、ノスリ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ など</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>12目28科36種</td> <td>コジュケイ、キジ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワラバト、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、イカルチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス など</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>15目32科54種</td> <td>コジュケイ、キジ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、イソシギ、トビ、サシバ、フクロウ、カワセミ、コガラ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス など</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>16目37科79種</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	調査時期	確認種数	主な確認種	初夏季	14目29科46種	コジュケイ、ヤマドリ、キジ、カルガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、トビ、サシバ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ など	秋季	12目28科45種	コジュケイ、ヤマドリ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、アオサギ、ダイサギ、アマツバメ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、オオタカ、サシバ、ノスリ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ など	春季	12目28科36種	コジュケイ、キジ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワラバト、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、イカルチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス など	冬季	15目32科54種	コジュケイ、キジ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、イソシギ、トビ、サシバ、フクロウ、カワセミ、コガラ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス など	合計	16目37科79種	-
調査時期	確認種数	主な確認種																																				
初夏季	16目35科68種	コジュケイ、ヤマドリ、キジ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ など																																				
秋季	15目33科66種	コジュケイ、ヤマドリ、キジ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、オオバン、ホトトギス、アマツバメ、ヒメアマツバメ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、コシアカツバメ など																																				
春季	16目35科68種	コジュケイ、キジ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス など																																				
冬季	15目34科72種	コジュケイ、キジ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、イカルチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス など																																				
合計	16目37科79種	-																																				
調査時期	確認種数	主な確認種																																				
初夏季	14目29科46種	コジュケイ、ヤマドリ、キジ、カルガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、トビ、サシバ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ など																																				
秋季	12目28科45種	コジュケイ、ヤマドリ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、アオサギ、ダイサギ、アマツバメ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、オオタカ、サシバ、ノスリ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ など																																				
春季	12目28科36種	コジュケイ、キジ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワラバト、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、イカルチドリ、クサシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、コガラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス など																																				
冬季	15目32科54種	コジュケイ、キジ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワラバト、キジバト、カワウ、ミゾゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、イソシギ、トビ、サシバ、フクロウ、カワセミ、コガラ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ハシボソガラス など																																				
合計	16目37科79種	-																																				
P10.10-86, 100 第10章10.10.1 表10.10-34(17) 表10.10-34(23)	【確認状況 現地調査】 ・当該調査地域での繁殖は確認されています。	【確認状況 現地調査】 ・当該調査地域での繁殖は確認されていません。																																				
P10.10-101 第10章10.10.1 表10.10-34(24)	【確認状況 現地調査】 ・当該調査地域での繁殖は確認されています。	【確認状況 現地調査】 ・当該調査地域での繁殖は確認されていません。ただし、営巣木は特定されていませんが、全域で鳴き声が確認されていることから繁殖している可能性が高いと考えられます。																																				

表 15.2-2(3) その他、補正前の評価書からの主な修正内容

評価書の頁	補正前の評価書	評価書
P10.10-242 第10章 10.10.1 表 10.10-43(1)	<p>【工事工程の配慮及び段階的な土地の改変】 ミゾゴイ、オオタカ、サシバの繁殖地の近傍で繁殖期間中に騒音・振動の発生する工事を実施しないことにより、繁殖活動への影響を回避できる。</p>	<p>【工事工程の配慮及び段階的な土地の改変】 ミゾゴイ、オオタカ、サシバ、<u>フクロウ</u>の繁殖地の近傍で繁殖期間中に騒音・振動の発生する工事を実施しないことにより、繁殖活動への影響を回避できる。</p>
P10.13-1 第13章 10.13.1 (3)	<p>【27行目】 —</p>	<p>【27行目】 <u>表 6-1(3)において指摘される鋸山ロープウェー索道運送施設については、当該施設が有料施設であり不特定多数が利用するものではないことや、ロープウェーのゴンドラ内が狭く、利用者も多いことで三脚を設置した撮影が困難であったことから、現地調査及び予測・評価の地点から除外しました。また、本事業では、鋸山ロープウェー索道運送施設に含まれる山頂駅に隣接する鋸山展望台において現地調査及び予測・評価を実施しており、当該地点から計画路線方面を望む視野は概ね同様となります。</u></p>